

竹島 徹 理事長退任記念誌

社会医療法人若竹会 35周年記念

わかたけヘルスケアシステム



竹島 徹 理事長退任記念誌

社会医療法人若竹会 35周年記念

わかたけヘルスケアシステム

社会医療法人 若竹会

経営理念と方針

1. 一人の人を大切に作る慈愛の医療と福祉の活動に徹する。
2. 一人の人の持つ無限の可能性を確信し、創造と挑戦による職員満足を目指す。
3. 職員は専門分野でのエキスパートを目指す。
すなわち医学の研鑽、技術の練磨、知識と経験の習熟を果たす。
4. 病者・利用者の安心・安全を図るとともに、地域の信頼を得る。
5. サービス業として、医療保健福祉活動の包括的展開を果たす。
6. 安定した経営が良質な法人事業を支えるという原則のもと、
上記実践のための適正収入を確保する。
7. 「患者さんの権利」に関する病院宣言を全職員が尊重し、実行する。

「患者さんの権利」に関する病院宣言

患者さんは医療者と共に病気と対峙するパートナーであり相互の信頼と協調の下に以下の権利を持つ。

1. 患者さんは、思いやりのある丁寧なケアを受ける権利を持つ。
2. 患者さんは、人格的に尊重され、尊厳を持ってその生を全うする権利を持つ。
3. 患者さんは、医師・医療従事者による十分な説明及びセカンドオピニオンを受け、治療を選択する権利を持つ。
4. 患者さんは、そのプライバシーが尊重される権利を持つ。
5. 患者さんは、より良い医療が行われるよう、職員が研修研鑽するよう期待する権利を持つ。
6. 患者さんは、医療費の明細の報告を受けると共に、医療費と福祉の公的援助に関する情報を受ける権利を持つ。

社会医療法人若竹会

つくばセントラル病院の歴史と今 — 4

新理事長挨拶 — 8

病院長挨拶 — 10

祝辞 — 12

表敬訪問 — 27

特別鼎談 — 30

法人概要 — 37

実績 — 49



社会医療法人若竹会

つくばセントラル病院の歴史と今

社会医療法人若竹会 会長
社会福祉法人若竹会 理事長

竹島 徹



はじめに

つくばセントラル病院が開設されて35年が経過した。このたびは私が理事長を退任する節目ということで、社会医療法人若竹会を中心にその沿革と現状を述べる。

新型コロナウイルス感染症に対する当院の対応

日本で新型コロナウイルス感染症事例が発症したのが横浜港のクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の乗客からで、2020年2月初旬のことであった。つくばセントラル病院では同年3月下旬に感染者をはじめて受け入れた。

法人理念でいつも「地域を守る、地域厳護を」と言っているのだから、「コロナから逃げるのではなく、コロナから地域を守ろう」と金子院長と話し、コロナ患者さんは原則受け入れていく方針を確認し、外来・入院を受け入れることとした。4月、5月は患者の自粛により外来と入院の診療患者数は甚大なマイナスの影響を受けた。しかし6月以降は復調し、2020年4～9月の上半期決算は、幸いにもクラスターなどの発生も無くて、黒字で

締めることができた。まだ補助金などの事は明らかになっていなかった時期であった。当院看護部長は「感染が疑われる患者もトップの判断で受け入れてきた。発熱があっても対応してくれるという認識が地域に広がったのではないか」と述べている。2つの雑誌記者から「2020年4月を皮切りに、全国的には1年も2年も患者減少と大幅な医療収支の赤字の続く医療法人病院が多い中で、つくばセントラル病院が2020年の上半期収支を黒字にできたのは素晴らしい。それこそ地域の信頼を得た結果と考えざるを得ませんね」と心強いコメントを頂いた。その後県より民間病院としては数少ない感染症対策重点病院に指定されている。コロナ蔓延の災禍に対する姿勢こそが、逆に地域からの信頼を増す結果になったと思われた。

わが病院増床の歴史

医療法人若竹会とつくばセントラル病院の35年に及ぶ歴史を通算して見ると次のように3期にわかれると思う。

(1) 黎明時代(1988年～12年間 A館128床)

第二次医療法改正を受けて作られた88年の新規

病院規制を主旨とする地域医療計画に対する駆け込み現象で、全国各地で次々と病院開設ラッシュが起こった。当時のある医療雑誌は、ここ茨城県南は「加熱する全国屈指の激戦エリア、中小病院の生き残り策に答えは？」と当院を紹介されたものであった。

128床の黎明期病院に当初から赴任して下さった麻酔科の横田先生そして筑波大消化器外科出張の辻先生には感謝してもしきれません。開院して患者さんは予想以上に多く来てくれて、これなら何とかやっていけると思った矢先、開院後1年を経ずして看護師さんが引き抜かれ、定員不足状態に陥ってしまったのです。その結果三つの病棟のうち一つを閉鎖せざるを得なくなり、これが6～7か月続いた。病棟閉鎖の噂は地域を駆け巡り、評判に疑問符がついてかえって来た。減収のため病院破産が心配な事態に陥ったが、職員諸君の団結の力により病棟閉鎖は程なく解消することができた。一致団結して総力を発揮した職員の強さをひしひしと感じ、独りで頑張っていたつもり、自分ひとり頑張っていたつもりの私にとっては大きな教訓となった。

開設当初には社団医療法人は認められず個人病院でスタートを切らざるを得なかった。開設後3年目より経常利益が出るようになって、はじめて老人保健施設・病棟増床計画など、組織拡充への想いが募っていった。1997年には老人保健施設が開設され、医療と福祉の複合体への方向が始まった。

(2) 成長時代(2000年～12年間 総病床数313床、B館2002年26床、C館2004年51床、D館2007年114床)

2000年からの12年間はまさに当院の成長の時代で、B、C、Dの3つの病床館が6年間という短期間に建てられたのは、今思うと驚異的で、新規許可ならびにM&Aの機会が重なったものであった。総病床185床の増設はこのチャンスを逃しては後々後悔すると思った上の判断であった。今ではむしろ時代の幸運の風によって、偶々獲得することができたとさえ感じる。介護系では社会福祉

法人若竹会 特別養護老人ホームが開設された。

①B館増設(2002年 総病床数148床)

B3階緩和ケア病棟20床の許可を得たいと県庁に足繫く通ったことが懐かしく思い出される。私は緩和ケア医療にこそ病院医療の理想の原点があると考えている。県も私の熱意に答えてくれて緩和ケア病床単独で認可された。加えてA館の既存6床室は4床室に変更して病室に余裕を持たせ、間引きしたベッドでB2階26床産婦人科病床として計148床となった。

②C館増設(2004年 総病床数199床)

県許可の51床(はじめ医療療養病床のうちDPC病床)に、腎(透析)センターを拡充80床に、さらにリハビリセンターを拡充したいとの想いやみがたく、C館増設で計199床となった。

③D館313床時代(2007年 総病床数313床)

取手市にあった植竹病院の院長は私の千葉大第二外科医局の先輩で、千葉大、筑波大時代には診療のお手伝い(パート)に行ったりしていた。亡くなられた後、M&A 114床の経営移譲が成立し(2005年)、D館(D2 回復期57床、D3 DPC 57床)が増築された。現在の313床体制である。緩和ケア病床開設以来、一般DPC病床だけではなく特化機能病床(回復期病床・地域包括ケア病床など)の選択は、背伸びをしないで、わが病院・法人のその時点の持てる能力と地域特性を考慮することができたので都合が良かった。急性期機能をしっかり備えた小回りの利く地域密着型病院の方が患者さんに負担が少ないと思う。

(3) 成熟時代(2011年～11年間)

①土浦リハビリテーション病院介護医療院(2022年～)の開院

②一般社団法人わかたけヘルスケアシステム(医療と介護の複合体)の結成(2022～)

経営・人事制度・人材研修育成制度などの面で「医療と介護の複合体」の一体化・包括化を推し進めている。施設の面展開時代といえる。当システムは会社企業におけるホールディングカンパニーと似ている。



Cure Care Creation

理念としては、①厚労省の唱える「地域包括ケアシステム」の一翼を担う②患者・利用者ファーストの立場から短時間で手間のかからない保険手続き・施設移動・コスト安価・便利・安心などのメリットを得るなどである。

本システムは、社会医療法人若竹会と社会福祉法人若竹会から成り立つとともに、医療と介護を統括する組織である。2つの病院、2つのクリニック、3つの訪問看護ステーション、4つの老健、2つの特養、6つの有料老人ホームなどから構成される。

病院・介護施設などに携わり本システム下の業務とされる実際例を列記する。

- (1) 医療福祉業績発表会（年1回開催、全職員参加）。
- (2) 人事評価制度（チャレンジ面接制度）能力主義・成果主義を基本（全職員）

(3) アメーバ経営手法（アメーバリーダー会議 1回／2か月、全職員）、組織を小規模に分割し、それぞれで採算を確認するマネジメント手法である。社会において働き方改革が話題であるが、職員個人の時間当たり採算の測定が重要である。

(4) 5S推進活動（全職員 業務の5Sも）などである。グループ代表委員による成果発表会開催。

(5) 阿見町セントラルキッチン工場の新設予定。

結び

最後に、金子剛病院長、金子洋子理事長両人のこれからの病院・法人に対する力溢れる抱負と決意をお聞きした。法人職員の皆様におかれましても未来への希望は同じだと思う。立ち上げ中途の事業もあり、新たなステージを作っていった頂き

たいとお願い申し上げます。これからのセントラル病院・若竹会法人の未来は盤石だと確信します。

ここにこれまでお世話になった法人内外の皆さまに甚深の感謝を捧げます。ありがとうございました。

竹島 徹 Toru Takeshima

1940年 7月30日生まれ
1959年 3月 ……静岡県立沼津東高等学校卒業
1966年 3月 ……千葉大学医学部卒業
1967年 4月 ……千葉大医学部大学院入学
1971年 3月 ……千葉大学医学部大学院卒業 医学博士号取得
1971年 4月 ……千葉大学医学部第二外科入局
1972年 4月 ……川鉄病院（現 千葉中央メディカルセンター病院）外科医長
1974年 8月 ……米国ニューヨーク マウントサイナイ大学医学部外科クリニカルフェロー
1975年 9月 ……筑波大学臨床医学系外科（消化器）講師
1988年12月 ……つくばセントラル病院 院長
1993年 3月 ……医療法人つくばセントラル病院 院長・理事長
1998年 4月 ……筑波大学医学専門学群臨床教授兼任
1999年 4月 ……社会福祉法人若竹会 理事長兼任

新理事長挨拶

一般社団法人わかたけヘルスケアシステム 代表理事
社会医療法人若竹会 理事長

金子 洋子



このたびは、2023年10月 1 日付けで社会医療法人若竹会の理事長に就任する運びとなりました金子洋子と申します。筑波大学1995年卒業（16 回生）です。創立者である竹島徹理事長から法人運営のバトンを託されることは大変光栄なことではありますが、同時に重責を感じております。1988年の病院創設から35年間にわたり若竹会を率いられた竹島理事長のご貢献、ご功績は計り知れません。深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

つくばセントラル病院は、「一人の患者さんが住み慣れた地域で、質の高い医療が受けられるように」との竹島理事長の熱き想いから誕生しました。創業当初から、一人の人の命と暮らしは切り離すことはできないと捉えた上で、医療と介護の密接な連携を追求する方向で、地域の安心安全の砦となるよう、拡充に貢献されてこられました。その結果、現在、社会医療法人若竹会は、急性期医療を担うつくばセントラル病院（病床数313床）を中心として、2022年11月に開院した土浦リハビリテーション病院 介護医療院138床と、 2 つのク

リニックを運営しております。介護事業では、老人保健施設 4 施設と特別養護老人ホーム 2 施設を含む計14施設を運営するに至り、急性期病院であるつくばセントラル病院との密接な連携が強みとなっています。

若竹会は2013年に公益性の高い医療を行う「社会医療法人」として茨城県より認可され、つくばセントラル病院は地域医療支援病院、災害拠点病院として承認されています。予防から救急医療・急性期・回復期リハビリテーション・周産期など、多様な病院機能を併せ持ちます。最先端の高精度放射線治療センターや腎透析センターなどの医療設備や機器を整えています。また腎結石破碎治療やリハビリテーションセンターなど専門的な治療やケアを行っております。がん緩和ケアについても、患者さんの痛みや苦しみを和らげるために努めています。これらはすべて、創業の理念である「一人の人のために」という竹島理事長の熱き想いの結晶です。

何もないところから、土地を探し、牛久の地を起点としてここまでの法人を築きあげるには、幾

金子 洋子 Yoko Kaneko

1969年 8月29日生まれ

学歴 1995年 3月 …… 筑波大学医学専門学群卒業
1998年 4月 …… 信州大学大学院博士課程 医学研究科（内科系内科学第二講座）入学
2002年 3月 …… 同学同課程 修了

学位 2002年 3月 …… 博士（医学）号修了 医博甲第582号

職歴 1995年 5月 …… 筑波大学附属病院 研修医
1996年 4月 …… 信州大学医学部附属病院 第2内科 医員
1996年10月 …… 国立松本病院 内科 医師
1997年10月 …… 長野赤十字病院 腎臓内科 医師
2003年 1月 …… 信州大学医学部 第2内科 特別研究員
2004年 4月 …… つくばセントラル病院入職（腎臓内科 部長）
2015年10月 …… 社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院 副院長
2021年 4月 …… 筑波大学医学群臨床教授
2022年10月 …… 社会医療法人若竹会 理事長代理
2023年10月 …… 社会医療法人若竹会 理事長

資格 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医・VA 血管内治療認定医、日本アフェレシス学会認定血漿交換療法専門医、透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会 VAIVT 認定専門医、日本透析アクセス医学会 VA 血管内治療認定医、日本腎臓リハビリテーション学会腎臓リハビリテーション指導士

所属学会 日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本アフェレシス学会国際腎臓学会、透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会、日本透析アクセス医学会、日本腎臓リハビリテーション学会

多の困難な局面があったと伺っております。その困難をもろともせず勇猛精進で、長い年月の間、徹底的に努力を重ねてこられました。竹島理事長の信念、情熱、先見性は私にとって大きな尊敬と感銘を与えてくれます。人間はやろうと決心すればここまでできるのだと、心底勇気がわきます。いつも徹しておれずに目標に突き進む姿勢が、人をひきつけ、人を動かし、ともに建設に汗を流そうと、職員皆の団結につながってきたのだと思います。私自身も、2004年につくばセントラル病院に加わりました。2015年に副院長を拝命し、2022年からは理事長代理として務めて参りました。その間、私は竹島理事長から大変多くのことを学ばせていただきました。おそばで研鑽を積ませていただいたことは私の誇りであり、生涯の財産です。これからは、その魂魄を胸に、第二の黎明期ともいべき新しい時代に即した法人建設に邁進していく所存です。竹島理事長にはこれからも大きく見守っていただき、その深い御見識とご経験に基づくご指南を賜りたいと切に願っております。そして竹島理事長の益々のご健康、ご長寿、ご多幸

を心よりお祈り申し上げます。

諸先輩方、諸先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。また、末永く社会医療法人若竹会をご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

病院長挨拶

社会医療法人若竹会
つくばセントラル病院 病院長

金子 剛



3年前の春、私はつくばセントラル病院の二代目の院長として、竹島先生からその任を引き継ぎました。就任直後よりコロナ禍に直面しますが、ここで先生が長年押し進められてきた「5S」「アメーバ」「チャレンジ」そして「業績発表会」による「組織の横ぐし機能」が効果的に発動され、これに打ち勝つことができました。改めて先生の先見性に心から感謝いたします。

その観点で35年間の歴史を振り返りますと、先生の先見性は法人のいたるところで実を結んでおります。まず緩和ケア病棟・周産期センターに代表される患者さんの命と真正面から向き合う診療体制は、病院理念を言外に顕わす金看板となりました。救命士を取り入れた救急診療体制は年間4000台の急患受入れを可能とし、地域救急にセントラルありと意気軒昂です。ESWLを皮切りに導入された先端医療機器の数々はサイバーナイフ・IMRTへと至り、よってもたらされる低侵襲治療は当院の旗頭です。老健・特養・介護医療院・GH・SS・CH・サ高住・小規模多機能および訪問診療等々の整備は、超高齢社会における地域社会

の安心の証となり、これらの連携は全国的にも稀な医療介護一体化の好事例となっております。さらには数人から始まった透析センターやリハビリセンターは、今では県南最大級の施設となり、当法人のエンジンと成長しております。このほか、社会医療法人化、災害拠点や地域医療支援病院、給食集約化や外国人労働者導入、M&A等々、先を見越した事業は数え切れません。

どうしてここまでできるのか？それは単に法人の発展という目的意識からではなく、目指すべき「社会の公器としての病院建設」へのあくなき挑戦の結果と理解しております。先生のやり方は、常に正々堂々、命がけ、そしてはじめたら最後まで人に文句を言うことなく徹してやる。先生から薫陶いただいたこの竹島メソッドを私もひたすらに守り、責任者として成長を続け、法人組織を前へ前へと進めていく決意です。その姿をどうかお元気で見守っていただけると幸いです。

金子 剛 Tsuyoshi kaneko

1969年 4月12日生まれ

学歴 1996年 3月 …… 信州大学医学部医学科 卒業
2005年 4月 …… 筑波大学大学院博士課程 人間総合科学研究科病態制御医学専攻 入学
2008年 3月 …… 同学同課程 修了

学位 2008年 3月 …… 博士（医学）号修了 医博甲第4778号

職歴 1996年 4月 …… 信州大学医学部附属病院 研修医
1997年 4月 …… 飯田市立病院 内科医師
1998年 4月 …… 信州大学老年科 医員
2000年 4月 …… 国立中信松本病院 消化器内科医師
2008年 4月 …… 筑波大学消化器内科 講師
2018年 4月 …… 社会医療法人セントラル総合クリニック院長
2019年 4月～… 筑波大学臨床教授（病院）
2020年 4月～… 社会医療法人つくばセントラル病院 病院長

資格 日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本レーザー医学会専門医・指導医、日本カプセル内視鏡学会認定医・同指導医

所属学会 日本内科学会、日本消化器内視鏡学会・関東支部評議員・本部評議員、日本消化器病学会・関東支部評議員、日本レーザー医学会・評議員、日本カプセル内視鏡学会・代議員



つくばセントラル病院開院35周年及び 竹島徹理事長の御退任に寄せて

このたびつくばセントラル病院が開院35周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

また竹島理事長のご退任にあたり、長きにわたり地域医療の充実・発展のため、ご尽力いただきましたことに敬意と感謝を申し上げます。貴院は昭和63年に開院以来、竹島理事長をはじめ職員の皆様の努力により、地域の中核病院として地域医療に貢献してられました。

近年では地域完結型医療の中心的な役割を担う地域医療支援病院に認定されましたほか、災害発生時に災害医療を行う医療機関として高度の診療機能と自己完結型の災害派遣医療救護チーム（DMAT）の派遣機能を有する災害拠点病院に認定され、地域における役割や重要性はさらに大きくなっております。

貴院におかれましては、今後とも地域住民の生活を支える病院として益々ご発展されますことを祈念いたします。そして竹島理事長のご功績に改めて謝意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。



牛久市長

沼田 和利

新たな時代の医療連携

社会医療法人若竹会つくばセントラル病院が創立35周年を迎えられえたことをお心から祝い申し上げます。病院の創立から現在の発展へと導いて来られました竹島徹理事長のご努力はいかばかりかと拝察いたします。

牛久市医師会は令和元年10月に竜ヶ崎市・牛久市医師会から分離独立し現在に至っていますが、独立と同時にコロナ時代へと突入しました。その状況下、医師会に所属する医師を派遣して行ったPCR検査センター事業では病院内駐車場に臨時検査施設を設営してご協力いただき、また令和3年3月に医療従事者から始まった新型コロナワクチン接種に対してもご協力いただくなど大変感謝しております。

このパンデミックを通して人々の社会生活のみならず医療の在り方も変わりました。来年4月からは医師の働き方改革も始まります。この方針の実施によりこれまで医師の献身的な姿勢をベースに支えられてきた医療の質が低下することも懸念されますが、それを最小限にとどめるためにも病院職員の皆様と医師会とが知恵を出し合い、連携を深め地域医療を支えていきましょう。



牛久市医師会
会長

小池 右

つくばセントラル病院開院35周年祝辞

この度、つくばセントラル病院が開院35周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴院は、救急告示病院や地域医療支援病院として、地域医療の中核的な役割を果たしておられますほか、新型コロナウイルス感染症の発生当初より専用病床の開設など、感染者の入院受入等にご協力いただいております。

さらに、社会医療法人として、県民が住み慣れた地域で希望する医療と介護を受けられる体制の充実にもご尽力されるなど、地域医療・福祉の向上に多大なご貢献をされております。

これもひとえに、35年という長きに渡り地域医療を支えていただいた竹島理事長のご尽力の賜物と、心から敬意と感謝の意を表する次第です。

県では、地域保健・医療・福祉の充実に取り組んでまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、金子新理事長の下、貴院が今後益々発展されますことを祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

社会医療法人若竹会創立35周年を祝って

この度社会医療法人若竹会が創立35周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

竹島徹理事長は1988（昭和63）年につくばセントラル病院を開院されて以来、病院経営に心血を注がれ、一代で地域医療支援病院かつ災害拠点病院の同院を中核とする一大医療・福祉グループを築かれました。私も実家の病院に戻って30年になりますが、竹島理事長とは1999（平成11）年の軽井沢での病院人事賃金合宿セミナーでご一緒して以降、四半世紀に渡ってお世話になっております。私も経営には前向きな方ですが、竹島理事長は私を遥かに上回る積極的な方でいつも感服しておりました。今回理事長を退任されるとのことですが、立派な後継者が育ったことを見届けて決断されたのだらうと思います。

最後になりますが、竹島徹理事長の35年間のご貢献に心から感謝を申し上げますとともに、竹島理事長の益々のご健勝と社会医療法人若竹会の益々のご発展を心より祈念して、お祝いのご挨拶といたします。



茨城県知事

大井川 和彦



一般社団法人茨城県医師会
会長

鈴木 邦彦

兄弟子としての竹島 徹先生の退任に想う

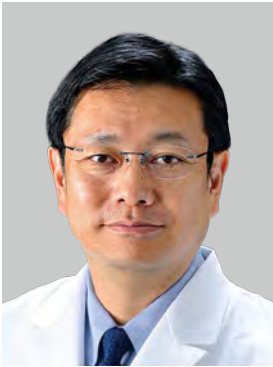
「外科の教授」の雰囲気を明確に植え付けて下さったのは、他でもない岩崎洋治先生である。

教授回診の途中でふと立ち止まる。目を閉じて少し顎をあげてしばし沈黙の時間が流れる。岩崎先生は何を思われたのか？何を言われるのか？周りを取り囲む屈強な若き外科医の中にいた精悍な竹島先生の姿は今でも強い印象を残している。1987年にM5の学生として病院実習に参加した時の事なのか、1988年の卒後最初にジュニアレジデントとして消化器外科の研修をした時の事か、もう35年も前の話だ。

私は1990年に筑波大の消化器外科に入局させていただくと同時に消化器外科の大学院生にさせていただいた。今思えば、ずいぶん生意気で、失礼で、不遜であったが、「最先端の癌遺伝子の勉強をしたいので、東京築地の国立がんセンターで研究をやらせてください。筑波大には1日もいない事になりますが、4月1日から4年間、築地に行かせてください。」と岩崎先生にお願いに伺った。しばし目を閉じた岩崎先生との間に流れた静寂は、永遠に続くのではないかと思える程長く怖かった。「君はズルをしようとして今、私の部屋に来た訳ではないのだな。分かった、私が責任を取るので思う存分研究をしてきなさい。」そしてこう続けて送り出して下さった。「君はがん研究をしようとして強く決心した時点で既に半分成功した様なものだ。でもな、最後までやめずにやり遂げて初めて本当の成功だ。」目尻に皺が寄っていたので一般的には笑顔と言うのだろうが、しかし目は全然笑ってなくて、その瞳の鋭さは恐ろしいばかりだった。築地のがんセンター時代にせっかく東京にいるのだから、と、ちょっとは遊ぼうかと思った事もあるが、あの岩崎先生の瞳を思い出すととてもそんな気分になれなかった。おかげで、本当にそのお陰で、柄にもなく4年間、文字通り研究と勉強に没頭する生活を送る事ができた。

確か竹島先生がセントラル病院を開院されたのは1988年だったと思うが、その時の座右の銘をどこかで読ませていただいた記憶がある。岩崎先生の語録のなかから「決心をして物事は始めることが半分成功したことで、やめないことが成功することである」を挙げておられた。私の様な一個人の研究とは全く比べる事もできない大きな決心だったと思われるが、同じ岩崎先生のお言葉を胸に竹島先生もこの35年を過ごされたのだと思うと、勝手に兄弟子の様な親しみを持たせていただいていた。ただこれも不思議なもので、竹島先生も表面的にはとても穏やかで優しい先生ではあるが、どうも、瞳の奥に秘めた鋭さに岩崎先生を思い起こさせるものがある。もちろん、その厳しさ無くしてはつくばセントラル病院の今日の繁栄はありえない。

岩崎先生、深尾先生、大河内先生から続く筑波大の消化器外科の歴史を現在引き継ぐ者として、自分に足りないものはあの瞳の鋭さだと自覚している。残念ながら今、岩崎先生のその瞳を拝む事はできないけれど、竹島先生は筑波大学消化器外科同門会の会長として長年その優しく、かつ、厳しい視線で私たちをご指導くださった。この度、セントラル病院の理事長職を引かれるという事ですですが、今まで本当にお疲れ様でした。これからは、ゆっくりと穏やかな生活を、と言いたいところですが、引き続き優しく、そして鋭い視線を私たちに浴びせ続ける事は竹島先生の大切な役割です。これからもずっと私たちをご指導いただきます様、よろしくお願いいたします。



筑波大学
臨床医学域長
消化器外科教授

小田 竜也

つくばセントラル病院開院35周年および 竹島徹社会医療法人若竹会理事長御退任祝辞

竹島徹先生は1988年に全く地盤の無かった牛久市につくばセントラル病院を開設され、ひたすら患者さんが主体となる「人間医学」の実現を目指して35年間歩まれてきました。その結果一個人病院を地域医療の中核に育てあげられたばかりか、先生は理事長として茨城県南地域に複数の医療施設や老人介護施設、さらに東京にも多数の老人介護施設を擁する一大社会医療法人若竹会を築き上げられました。これは先生の理念を見事に実現させた証です。傘下の多くの施設は地域に要望されて開設されてきたと聞いていますが、職員全員の人間医学実現への努力が評価された結果なのでしょう。

竹島徹理事長を継ぐ次期理事長はじめ各組織のリーダーの方々は先生の薫陶を受け、あるいはその理念に共鳴された方々ばかりです。若竹会は今後も地域の方々に頼られさらに躍進してゆくことでしょう。

竹島徹先生のご健康と社会医療法人若竹会の益々のご発展を心より祈念しております。

竹島徹理事長御退任の祝辞

このたび竹島徹先生におかれましては医療法人若竹会の理事長を御退任されるにあたり、御祝いを申し上げますとともに、これまでの若竹会のめざましい発展に貢献されたご功績に対して心より敬意を表します。

私と竹島先生の最初の出会いは私が筑波大学付属病院外科系レジデントとして消化器外科に勤務した時でした。当時の消化器外科は千葉大学から赴任された岩崎洋治教授を中心とした「野武士軍団」でした。そのような中で竹島先生は普段は比較的言葉数が少なく、常に冷静沈着に状況を見極め、時に発言をされる際には適格な意見を述べておられました。

つくばセントラル病院を開設された後には私も同院の脳神経外科外来を担当した時期がありましたが、病院や様々な施設・設備の増設・開設などめざましい発展の勢いにいつも驚嘆の念を禁じ得ませんでした。常に冷静に状況を見極め、ここぞというときに大きな決断をされる竹島先生ならではの采配だったかと思います。この度一線をひかれるとのことですが、今後とも竹島徹先生の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



筑波大学
名誉教授

深尾 立



茨城県立医療大学
学長

前・筑波大学附属病院長
脳神経外科教授

松村 明

記念誌に寄せて

このたび、社会医療法人若竹会が35周年を迎えられたことに、心からお慶び申し上げます。

昭和63年のつくばセントラル病院開設以来、地域医療の実践に真摯に取り組まれ、社会医療法人や地域医療支援病院としての指定を受けられるなど、現在では県南地区の医療を支えるうえでなくてはならない存在として、地域医療に大きく貢献されていることに深く敬意を表します。

若竹会がここまで発展してこられたのは、竹島徹理事長の類まれなリーダーシップに依るところが大きいと考えております。我々総合診療科も、竹島理事長の多大なるご理解のおかげで、在宅医療をはじめとして充実した活動ができていることに、心より感謝申し上げます。今回、竹島理事長のご退任に当たり、これまでの長年のご尽力、ご支援に深くお礼を申し上げるとともに、今後の竹島先生のご健康と、社会医療法人若竹会の今後益々のご発展を祈念いたしております。



筑波大学医学医療系
地域医療教育学
教授

筑波大学附属病院
副病院長

前野 哲博

地域での緩和ケア実践におけるご尽力に 心より御礼を申し上げます

地域での緩和ケア実践におけるご尽力に心より御礼を申し上げます
竹島徹理事長のご退任にあたり、記念誌の原稿を書く機会をいただきましたことを大変光栄に存じます。竹島先生は、がん患者の終末期医療を担う緩和ケア病棟の運営において、先駆的な役割を果たされた方であり、その功績は計り知れません。理事長の退任に際し、深い敬意と感謝の気持ちを表したいと思います。

竹島先生は、20年前に緩和ケア病棟を開設されたときから、常に患者さんとその家族の立場に立って、尊厳ある最期を迎えることができるように支援されました。理事長は、緩和ケア病棟において医療や看護だけでなく、心理社会的ケアやスピリチュアルケアにも力を入れられ、緩和ケアの活動を広く社会に発信し、その普及や啓発に貢献されました。

竹島先生が引退されることは、茨城県南の地域住民にとって、そして我々緩和ケアに従事する者にとって大きな喪失ですが、同時に新たな旅立ちでもあります。筑波大学緩和支援診療科は令和5年度から、緩和ケア病棟に複数の医師を派遣させていただき、その運営のお手伝いをさせて頂いておりますが、竹島理事長が築き上げられたホスピスの精神と実践を受け継ぎ、さらに発展させていくことが私たちの責務です。竹島先生がこれからも緩和ケア病棟の活動にご関心とご支援をいただけることを願っています。

最後になりましたが、竹島先生とご家族様のご健康とお幸せを心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



筑波大学附属病院
緩和支援診療科
教授

木澤 義之

竹島徹先生のご退任に寄せて

竹島徹先生の理事長ご退任にあたり、ご挨拶を申し上げます。
竹島先生は1988年につくばセントラル病院の院長に就任され、以降、社会医療法人若竹会の構築と発展にご尽力されました。竹島先生は、「病院の使命は『地域を守る』こと」という理念のもと、茨城県における地域医療の充実に積極的に取り組みられました。特に、コロナ禍において医療体制の不備が危惧される中、いち早く独自のコロナ検査態勢を構築されたことは素晴らしい取り組みでございました。

竹島先生は1966年の千葉大学医学部のご卒業で、私の大先輩にあたります。私は2012年に千葉大から筑波大に異動してまいりましたが、千葉大の同窓（ゐのはな会の一員）ということで、竹島先生にはいろいろなことでご支援・ご助言をいただきました。この場を借りて、御礼を申し上げます。

最後になりますが、竹島先生のご健勝と、社会医療法人若竹会の益々の、そして末永い繁栄を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

竹島徹先生のご退任に寄せて

竹島徹先生は外科医として第一線で様々な疾患の診療にあたってこられるとともに、社会医療法人若竹会をここまで大きく育て上げられ、県南地域の医療の充実に非常に大きく貢献してこられたものと思います。

わたくしの専門領域である放射線治療については、牛久・龍ヶ崎地域にはこれまで治療施設がなく、多くの患者さんは、つくば・土浦または千葉・東京にまで行かないとがんの治療ができない現状がありました。竹島先生は、この状況を打破したいとのことで、2012年から放射線治療を導入されました。どうせやるなら特徴のあるものをということで、高精度な定位放射線治療（いわゆるピンポイント照射）ができるサイバーナイフをまず導入し、2022年からはこちらも高精度の強度変調照射の専用機であるラディザクト（トモセラピー）をいち早く導入されました。導入にかかる費用は莫大なものがあつたと思いますが、先生は「どうしても当院でやりたい」という、熱い思いをお話になられたのを思い出します。我々も、先生の熱い思いを受け継いで、地域の患者さんが少しでも良い放射線治療を受けられるように尽力して行きたいと思います。

竹島先生、長きにわたり大変ありがとうございました。これからは次世代のセントラル病院の発展に微力ながら手助けをできればと思っております。



筑波大学
医学医療系整形外科
教授

山崎 正志



筑波大学
医学医療系放射線腫瘍学
教授

櫻井 英幸

社会医療法人若竹会35周年によせて

若竹会創立35周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。竹島徹理事長様におかれましては御退任とのこと、ここに深く敬意と感謝の意を表したく存じます。竹島先生には私が学生の時分、消化器外科の研修医であった頃には筑波大学において多くのご指導を賜りました。後年、私が総合病院水戸協同病院の病院長になってからは、竹島先生は常に病院の運営経営の先達、目標であり、一番尊敬する病院長先生でした。そして、いつも筑波大学消化器外科の同門、後輩医師を思いやるご配慮には頭が下がる思いでした。若竹会におかれましては広く時代の要請に応える医療福祉事業を展開され、地域の将来に安心の礎を築かれていることは、竹島先生と若竹会の皆様の先見の明にほかなりません。竹島先生には今後もこれまで以上にご指導頂ければと願っております。先生の益々のご活躍ご健勝と、若竹会のご発展をご祈念申し上げます。



茨城県厚生農業協同組合
連合会
代表理事副理事長

渡邊 宗章

社会医療法人若竹会創立35周年と 竹島徹先生理事長ご退任を祝して

この度は、社会医療法人若竹会が創立35周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。つくばセントラル病院をはじめとした社会医療法人若竹会は、茨城県県南の地域医療の中核として医療水準の向上、地域住民の健康・福祉の増進に、多大な貢献をされてこられました。優れたリーダーシップで若竹会を率いてこられた竹島徹先生におかれましては、理事長ご退任にあたり、深く敬意を表します。土浦二次医療圏には介護医療院や回復期リハビリテーション施設が非常に乏しく、地域として非常に望まれていたところ、竹島徹先生のご慧眼をもって、当地に土浦リハビリテーション病院介護医療院をご開院されたことは、まさに適材適所で、地域医療に大きな貢献をされる方だと感銘を受けました。今後も、地域医療の発展にご指導賜れば幸いです。



茨城県厚生農業協同組合
連合会
代表理事副理事長

総合病院土浦協同病院
院長

河内 敏行

竹島徹理事長ご退任に寄せて

竹島徹理事長の御退任にあたり、これまでの御功労に深く敬意を表しますとともに、社会医療法人若竹会が35周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

つくばセントラル病院におかれましては、設立当初から、二次救急医療の輪番制への参加をはじめ、地域医療支援病院災害拠点病院としての機能の拡充を図られるとともに、先進医療、回復期医療、緩和ケアなどに加え、関連施設との連携体制の強化を積極的に推進するなど、地域医療の向上に多大な御尽力をいただいております。

また、コロナ禍における、発熱外来の開設や入院患者の受入れ、コロナ患者のオンライン診療にも取り組まれ、夜間や週末における保健所からの相談案件にも懇切丁寧に御対応いただきましたことに心から感謝申し上げます。次第です。

結びに、竹島徹理事長の御健勝と今後益々の御活躍並びに貴法人の御発展を祈念しお祝いの言葉といたします。

社会医療法人若竹会 創立35周年記念によせて

この度、社会医療法人若竹会が創立35周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。また創立以来、法人の基盤構築と発展に寄与されました竹島徹先生の理事長ご退任の報をお聞きし、改めてそのご功績に深く敬意を表しますとともに、在任中の本会へのご厚情に感謝申し上げます。

つくばセントラル病院開設以来、地域医療の確保と健康増進に努められ、新型コロナウイルスに対しては、いち早く自前の検査体制を確立し、感染の拡大防止に尽力されました。牛久市と連携した産後ケアセンターの設置、土浦リハビリテーション病院 介護医療院の設置など、地域包括ケアシステムの構築にも深く寄与されており、まさに病院の使命は「地域を守る」こととされた竹島先生のお考えが、病院だけではなく地域社会にも根付いていることが実感できます。

末筆ではございますが、新体制となります貴法人の益々のご発展をお祈り申し上げ、祝辞のあいさつとさせていただきます。



茨城県竜ヶ崎保健所
所長

石田 久美子



茨城県厚生農業協同組合
連合会
代表理事理事長

長谷川 博史

竹島徹理事長の退任に寄せて

1988年につくばセントラル病院を開院されて以来、35年わたる病院長・理事長職を終えられ、無事ご退任を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

先生は、救急医療を核とした急性期病院を地域医療支援病院、災害拠点病院として公益性を高め、また、超高齢化社会における疾病構造の変化に対応し、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟や訪問看護ステーション、介護施設などを設け、医療、介護、住まいの連携を強化されました。先生の成功には、人知れずの努力と卓越した体力が欠かせなかったと思いますが、何よりも「一人の人を大切にする」という信念を貫き通したことがその礎となったと思います。これは患者さんやスタッフへの深い思いやりの表れであり、私たちに感銘を与えるとともにつくばセントラル病院に不朽の遺産を築かれました。

結びに、先生の長年にわたるご功績に対し改めて衷心より敬意を表しますとともに、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



一般財団法人 筑波麓仁会
筑波学園病院
病院長

原田 繁



牛久愛和総合病院
院長

瀬下 明良

若竹会35周年および 竹島徹理事長退任記念によせて

若竹会が創立35周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。また竹島徹理事長におかれましては、長い間にわたって本当にお疲れ様でした。若竹会は、この35年間の社会や医療の変化に応じて、救急医療、がん治療、リハビリテーション、高齢者医療、在宅医療そして介護と、地域が必要とする医療を実に幅広く次々に提供されてこられました。この体制を構築された高い視点と先見性、リーダーシップにはとても敬服しております。またここ数年のCOVID19の感染に対しても率先して対応され、同じ地域の病院として励まされてきました。先生は数年前の医療法人協会ニュースに「地域の医療と介護に役に立つなら、それに勝る本懐はないと願い、歳をとっても現役として働けること幸せと感じ仕事をしている」と書かれていました。これからも茨城県医療のレジェンドのお一人として、ご活躍されることを願っています。

つくばセントラル病院 開院35周年のお祝い

つくばセントラル病院開院35周年、誠におめでとうございます。
私が研修医時代、竹島先生は新進気鋭の消化器外科講師として活躍しておられました。患者さんが亡くなったとき、「今からご家族に説明するから同席しなさい」と研修医の私を同席させてくださり、面談後に「慈悲の心なんだよ」と語っておられた、病棟奥の面談室の情景を、今でも鮮明に記憶しています。

つくばセントラル病院開院の話を耳にし、竹島先生が転進されるのかと、たいへん驚きましたが、その後のご活躍は皆の知るとおりであり、社会情勢の変化を先取りした先進的な経営手腕を発揮してこられました。土浦リハビリテーション病院介護医療院の開院式で竹島先生のご挨拶を拝聴し、数々の部品を組み上げて大きな作品を作り上げてゆくが如き大観には、敬意を表するばかりです。

私共も竹島先生から賜った薫陶を基に地域の医療に貢献して参ります。つくばセントラル病院ならびに若竹会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

竹島 徹先生のご退任に寄せて

この度は、竹島 徹先生の長年にわたるご功労に敬意を表すると共に新たな一歩を踏み出される門出を心よりお慶び申し上げます。

社会医療法人若竹会は、急性期医療を展開するつくばセントラル病院を軸とした総合医療・福祉グループであり、地域における中心的存在として多くの方々に信頼を寄せられてきました。個人病院として地域に密着し患者さんに優しい病院であると共に公益性を備えた質の高い医療が提供できる病院を目指してこられました。当グループ前会長小關 迪とも茨城県南エリアにおいてその黎明期の時代よりライバルでありよき友人でした。公私共に刺激し合い高め合っている関係を幼少期より間近で見て育った私にとっても憧れの存在でした。そして正にそのリーダーシップと洞察力が大変刺激となり私自身が成長するための原動力にもなっておりました。現在もセントラル総合クリニックや土浦リハビリテーション病院介護医療院の開設などその発展はとどまることを知りません。今後も益々のご発展をご期待申し上げます。

竹島先生のご退任は、当グループ、そして何より私自身にとっても大変寂しいことではございますが同時に感謝と尊敬の念で満ち溢れております。これまでのご指導とご尽力に心から感謝申し上げます。退任後もそのお人柄と経験が社会に大きな影響を与え続けることを確信し、お祝いのお言葉とさせていただきます。ご退任誠におめでとうございます。



筑波メディカルセンター
病院
病院長

河野 元嗣



筑波記念グループ
CEO

小關 剛

竹島理事長のご功績に敬意を表して

竹島徹理事長の御退任にあたり、これまでの御功勞に深く敬意を表しますとともに、社会医療法人若竹会が35周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

つくばセントラル病院におかれましては、設立当初から、二次救急医療の輪番制への参加をはじめ、地域医療支援病院、災害拠点病院としての機能の拡充を図られるとともに、先進医療、回復期医療、緩和ケアなどに加え、関連施設との連携体制の強化を積極的に推進するなど、地域医療の向上に多大な御尽力をいただいております。

また、コロナ禍における、発熱外来の開設や入院患者の受入れ、コロナ患者のオンライン診療にも取り組まれ、夜間や週末における保健所からの相談案件にも懇切丁寧に御対応いただきましたことに心から感謝申し上げます。

結びに、竹島徹理事長の御健勝と今後益々の御活躍並びに貴法人の御発展を祈念しお祝いの言葉といたします。



牛尾病院
理事長・病院長

牛尾 浩樹

若竹会理事長 竹島 徹先生のご退任に寄せて

竹島 徹先生、社会医療法人若竹会会長として、35年の長きにわたるご活躍、誠にご苦労様でした。謹んでお祝い申し上げます。

私は、千葉大学で竹島先生の、3年後輩となります。卒業後、竹島先生は当時高名だった中山恒明教授の第2外科に進まれ、消化器外科の研鑽を積まれました。その後、新設された筑波大学消化器外科に講師として赴任されました。

私も同じころに、筑波大学脳神経外科に赴任しました。

そして、1988年に先生はその後のご活躍のスタートとなる、“つくばセントラル病院”を開設されました。その後のご活躍は、多くの皆様ご存知のことと思います。急性期医療～慢性期医療、医療と福祉の連携などのほか、高度先進医療にも取り組まれてこられました。腎結石破碎装置の導入、腫瘍センターやサイバーナイフセンターを設置されました。

大学の後輩という関係で、会合でお会いするたびに声をかけていただきました。先生の益々のご活躍と、我々後輩へのご助言をお願いしてご挨拶いたします。

つくばセントラル病院の開院35周年への祝辞 ご退任される竹島徹理事長への敬意と謝意

今般、つくばセントラル病院が開院35周年を迎えられますことに、心からお慶び申し上げます。同時に、1988年の創設から現在まで、多くの艱難辛苦を乗り越えてここまで病院を発展させた、竹島徹理事長に心から敬意と謝意を表します。

つくばセントラル病院は、茨城県南部の住民の方々への医療提供に甚大なる貢献をされてまいりました。例えば、開院直後から救急告示病院として、毎日多くの数の救急車でのお患者さん搬入を受け入れておられ、現在でも日々、私自身、病院内の早朝の会議で確認するところとなっています。2018年には地域医療支援病院として承認を受けています。これは、地域の病院や診療所などからの紹介患者さんの診療、医療機器等の共同利用を通じて、第一線の地域医療を担う医師を支援する能力と実践が認められたものであります。

医療は常に変化し、現在でも、少子高齢化、医師の働き方改革、新たな感染症等、医療界の柔軟な対応が求められる課題は尽きません。今後とも、つくばセントラル病院の職員の皆さまのご活躍と、竹島徹理事長の益々のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

竹島徹先生理事長退任に寄せて

竹島先生、お疲れ様でした。

私は1981年筑波大を卒業後、消化器内科医として10年間同大で研修、研究をつとめており、筑波大学消化器外科医としての竹島先生には初期からお世話になっておりました。大学院修了後、近隣のケアミックス病院で10年間奉職し、それから現在の急性期総合病院に勤務して22年になります。つくばセントラル病院までは車で30分弱しか離れていない隣の病院ですし、当院に無い機能も多数お持ちですので、病病連携では密な関係となっております。

医師不足、看護師不足の茨城県南部で、病院勤務医あるいは管理者として、竹島先生も同様と思いますが、苦労を重ねてまいりました。また病院運営では各種施設基準、加算の向上に努めてきましたが、そのほとんどがセントラル病院のあとを追いかけていたように感じております。

竹島先生ほどのパッションを目指しながら、小職も暫く頑張っていきます。

ありがとうございました。



一般社団法人きぬ医師会
会長

中川 邦夫



東京医科大学
茨城医療センター病院長

京都大学
名誉教授

福井 次矢



龍ヶ崎済生会病院
院長

海老原 次男

祝辞

社会医療法人若竹会が創立35周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会は昭和63年に開院されて以来、医療水準の向上と地域住民の健康の増進に大きな役割を果たしてこられました。特に昨今のコロナ禍においては、重点医療機関として地域医療を守り、その貢献は計り知れません。

また、社会医療法人への認可や介護医療院新設、東京都内での介護施設の開設など広範囲にわたり地域の為に果敢に取り組んでこられました。茨城県内にとどまらず、東京都の地域医療にも貢献されていらっしゃることで、深く感謝申し上げます。

貴会が茨城県内でも有数の中核医療機関に発展したのも竹島徹先生の強力なリーダーシップの賜物であり、これまでの努力と成果に敬意を表します。今後は金子洋子新理事長のもと、さらなる発展と健康な未来の実現に向けて、一層のご活躍を心より期待しております。

以上



株式会社きらぼし銀行
頭取

渡邊 壽信



株式会社常陽銀行
取締役頭取

秋野 哲也

社会医療法人若竹会35周年祝辞

この度、社会医療法人若竹会がめでたく創立35周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

日頃より、「1人の人を大切にする慈愛の医療と福祉の活動に徹する」という理念のもと、地域の医療・福祉サービスの充実に竹島理事長はじめ職員の皆様のご尽力されていることに対し、深く感謝申し上げます。

また、この度ご退任されます竹島理事長におかれましては、永年にわたり貴法人の先頭に立ち、質の高い医療サービスの提供、時代に先駆けた「地域包括ケアシステム」の構築にご尽力いただきました。これまでの地域医療への多大なる貢献に深く敬意を表する次第です。

今後も貴法人がこれまで培った知見と実績を活かし、引続き地域住民のニーズに応じた質の高い医療・福祉サービスを提供されることを期待しております。結びに、改めまして竹島理事長のこれまでのご功績に対し感謝申し上げるとともに、貴法人の益々のご発展と皆様のご健勝、ご活躍をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

つくばセントラル病院 竹島徹理事長のご退任 及び開院35周年に際してのご挨拶

この度はつくばセントラル病院竹島徹理事長のご退任、及び開院35周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

思い起こせば25年前、公認会計士長隆事務所とご契約頂いてから、四半世紀の長きに及び多大なご貢献を賜り心より御礼申し上げます。

社会医療法人若竹会様の決算も素晴らしくなっております。事業収益143億円、税引純利益7.4億円、純資産53億円は、誇るに足る業績と存じます。

書籍「産後ケアの全て」内の、竹島絹子先生の論稿「行政との連携で進める産後ケア～地域の親子は地域で支える～」でも触れていただいておりますとおり、2015年4月に産後ケアセンター「いろは」の院長様と一緒に厚生労働省の児童家庭母子保健課を訪問したことから、牛久市内の産後ケア事業が始まりました。竹島徹様には、ご退任後も産後ケア事業のサポートをお願いしたく、益々のご健勝をお祈り申し上げます。



監査法人長隆事務所
代表社員

長 隆





令和5年9月4日(月) 茨城県庁にて 大井川知事を表敬訪問しました

医療と介護が融合した新たな拠点

竹島前理事長 今日はお忙しい中お時間を頂戴しまして恐れ入ります。前回訪問させていただいたのが開院30周年のときでしたので、大井川知事にお目にかかるのは5年ぶりとなります。この度、私が今年9月をもって社会医療法人若竹会の理事長を退任することになりましたので、金子洋子新理事長、金子剛病院長と共にご挨拶に伺いました。
金子新理事長・金子病院長 どうぞよろしくお願いいたします。

大井川知事 本日は皆様で県庁までお越しいただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

竹島前理事長 昨年は土浦リハビリテーション病院 介護医療院の開院に際し、大井川知事から御祝辞を賜りありがとうございました。介護医療院は非常に好評で、現在ほぼ満床でございます。

大井川知事 それだけ支持されている理由は、しっかりとした病院機能を有した介護施設だからでしょうか？

竹島前理事長 おっしゃる通り、回復期リハビリテーション病棟34床、地域包括ケア病床8床、介護医療院96床を建物内に併設しているのが特徴です。また、リハビリテーションセラピストのもと充実したリハビリテーションを提供しています。

金子新理事長 長期入所は難しいですが、介護医療院では看取りまでさせていただきますので、終



の住処にすることができる点も大きいと思います。

大井川知事 とても充実した体制ですね。私の母親も高齢ですので、非常に関心があります。

金子病院長 立地が土浦協同病院の跡地でございますので、アクセスも便利です。土浦協同病院がおおつ野に移転して一時期は街から光が消えたような寂しさがありましたが、今また新しい光が灯ったと地域の皆さんが喜んでくださっています。

大井川知事 地域で喜ばれる施設となっていることを、本当にうれしく思います。

新型コロナウイルス感染症から地域を守る

竹島前理事長 今回、大井川知事にもう一つお礼を申し上げたいのが、2020年に新型コロナウイルス感染症入院受入の重点医療機関にいただいたことです。私たちは病院として新型コロナウイルス感染症から地域を守る使命があり、率先して立ち向かうことができました。そのとき専任で対応したのが金子病院長です。

大井川知事 当時は入院受入を躊躇される病院が多い中で積極的に対応していただき、大変ありがたく思っています。振り返りますと、2020年3月に全国の学校が一斉休校となった時点で茨城県はまだ感染者がゼロでしたが、いくらご説明しても県民の皆さんの不安を拭うことができない状況が続いていました。

金子病院長 当時は後から大きな感染の波が来ることなど分かっておりませんし、まったく先が見えませんでした。そういう中で私たちが臨床の現場で一生懸命やらせていただいたことにより、病院全体が成長できたと受け止めてお



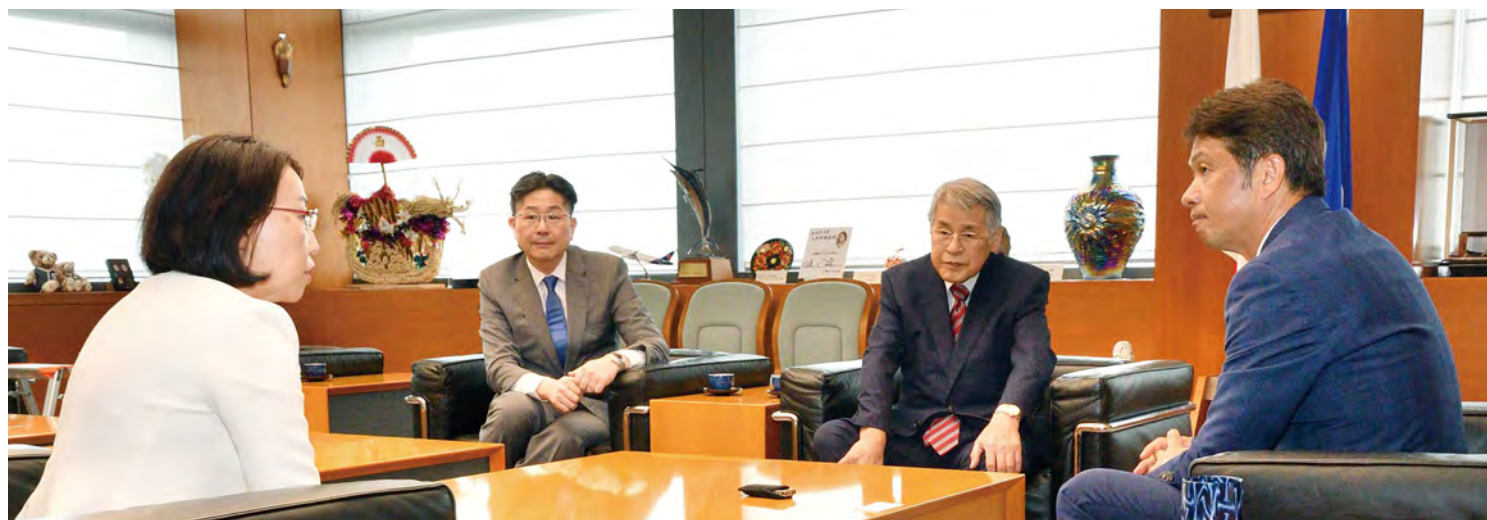
ります。

竹島前理事長 今では皆さんの行動も大分オープンになりましたが、依然として病院内は大変な状況が続いています。

金子病院長 例えば介護施設

の入所者など高齢者が重症化し、入院となりますと、10%から20%がお亡くなりになるというデータがございますので、まだ病院や介護施設では対応が必要です。

大井川知事 ご尽力に感謝申し上げます。経済活動



も戻さなければならない一方で、病院や介護施設の皆さんは今も神経が張り詰めたままの状況が続いており、大変申し訳なく思います。

高齢化社会で重要度を増す透析治療

竹島前理事長 透析治療も当院の特徴的な取り組みです。県南で一番多く透析治療を提供しており、災害時透析基幹病院にも指定されております。

金子新理事長 私は腎臓内科が専門で、腎透析領域の仕事をしてまいりました。私どもはつくばセントラル病院で約200人、セントラル腎クリニック龍ヶ崎で約170人の透析患者に対応し、土浦リハビリテーション病院の透析室にも装置を30台備えています。これから高齢化が進むにつれて高齢の透析患者も増えていくことになり、さらに超高

齢で通院できない方々への対応も深刻な課題です。そうした面でも、土浦リハビリテーション病院がお役に立てるのではないかと考えております。

大井川知事 先進的に取り組んでいただいていることは地域医療にとって非常に頼もしい限りで、改めて感謝申し上げます。

地域包括ケアシステムの牽引役に

大井川知事 ここで皆様の率直なご意見を伺いたいのですが、いわゆる「地域包括ケアシステム」をどのようにご覧になっていらっしゃいますか？

県として旗振りはしているものの、なかなか進展しないのが正直なところ。

竹島前理事長 当院は「スーパー・ケアミックス病院」を自称しており、地域包括ケアシステムと一緒に進めたいと考えています。医療と介護の大きな壁を取り払い、医療と介護の複合体として進むのが目標です。

大井川知事 思想的には、「入院しなくてよい人は、自宅で必要な医療も介護サービスも受けてください」ということかと思います。

竹島前理事長 おっしゃる通り、「時々入院、ほぼ在宅」というのが日本全国共通の掛け声です。

大井川知事 しかしながら、在宅医療の提供は医療従事者にとって非常に効率が悪く、なかなか簡単ではないように感じられます。

金子病院長 都会と田舎では感覚が違い、例えば東京では団地で一度に多くの訪問診療ができた

しても、茨城では半日に4人くらいが限界です。

大井川知事 そうなりま

すと、東京と同じ政策を茨城でコピーするわけにはいきませんね。

金子病院長 そう思います。また、入院して短期間で回復しても、核家族で面倒を見てくれる人がおらず家に帰れない場合もあります。そういう方々にも、当院のスーパー・ケアミックスによりワンストップの医療を提供したいと考えています。

金子新理事長 介護医療院、介護老人保健施設、ショートステイなど、多様な選択肢を提供できるのが強みです。

大井川知事 それは患者さん

やご家族の立場からすると、心強く安心感がありますね。

竹島前理事長 病院に一次救急・二次救急・三次救急があるように、在宅診療も一次在宅・二次在宅と分ける。そしてプライマリーケアは開業医の先生が担い、当院で複雑なケースを担当する。私たちはそういうふう

に地域で力を合わせ、在宅医療の厚みを増していきたいと考えています。

大井川知事 それは非常に素晴らしいお考えです。地域に根ざした医療・介護の先進的かつ幅広い取り組みに大いに期待しております。県としても引き続きサポートさせていただきますし、ご指導をいただければと思います。今後ともよろしく
竹島前理事長・金子新理事長・金子病院長 こちらこそ、よろしくお願





特別鼎談

開院からこれまで、そしてこれからの 人と地域に寄り添う医療

出席者

新理事長

金子 洋子

前理事長

竹島 徹

病院長

金子 剛

つくばセントラル病院の原点とは

竹島前理事長 私がなぜつくばセントラル病院を開院したのか。その質問を、これまで幾度となく受けてきました。その時にいつもお話しするのは、とある患者さんのことです。

かつて私は筑波大学で消化器外科の講師をしており、がんの手術を数多く手がけていました。そのうちの患者さんの一人が、2人のお子さんを持つ38歳のお母さんです。筑波大学附属病院で胃が

んの手術をしましたが、腹膜播種のため根治的な切除ができないまま腹を閉じました。

私は退院後の治療をどうするか考え、土浦の知り合いの病院で患者さんを預かっていただきました。ご家族からは、「とにかく一日でも長く生かしてほしい」というお気持ちを聞いていました。そこで末期がんの患者さんに何とか栄養を摂ってもらおうと、当時最新の治療法だった中心静脈栄養（IVH、高カロリー輸液）の点滴をすることにしました。まだ輸液バッグもない時代で、自分で



高カロリー輸液のボトルを何本も作って土浦の病院に通い、毎日点滴を続けた

結果、約2か月延命することができました。

当時はがん告知ができない時代で、病名を隠しているため患者さんとの間に壁があり、随分歯痒さを感じたものです。その経験を通して、がん患者さんにもっと優しく親切にしてあげられる病院、患者さんと一緒に苦しみを分かち合える病院があればいいと思ったのが、開院の動機です。

もう一つは、医療法改正に基づく病床規制のスタートが約1年後に迫っていたことです。それ以降は新たに病床を増やすことができなくなります。ですから「開院するなら今しかない」と病院開設に向けて動きました。長くなりましたが、今申し上げた2つが開院の理由です。

金子新理事長 今のお話は、折に触れて竹島前理事長から伺っておりましたが、やはり原点というのは非常に大切だと実感しました。「一人の人を大切にする慈愛の医療と福祉の活動に徹する」という理念は、竹島前理事長が



一人の患者さんと向き合った実体験が基となり、「地域で診ることのできる患者さんを地域で診ていきたい」という思いの発露です。その思いに心から共感できますし、その原点があるからこそ今に繋がる発展があるのだと受け止めています。

私の医師としての原点は、研修医時代に指導をしてくれた教授の言葉です。「いろいろな病院で働くとき、行く先々で信頼される人になりなさい。信頼とは、患者さんやその家族、特にそこで働いている職員の人たちから“私の家族を診てください”と言ってもらえるようになることです」と教えていただきました。後につくばセントラル病院で働き始め、竹島前理事長のお話を聞いたとき、

私が教授から受けた教えと共通していると感じました。私自身もそういう医師でありたいし、同時につくばセントラル病院を地域の方や働く方から「自分の家族を診てもらいたい」と言ってもらえる病院にしていきたいと思います。

金子病院長 日々いろいろなことがあると、「自分はなぜこの仕事をしているのか」を忘れがちにな



ります。ですから、自分の中に確固たる原点があること、そしてそこに立ち返って考えることが何より大事なのだと思います。金子新理事長がお話しされたよう

に、「自分の家族を診てほしいと言われる医師になる」と分かりやすい言葉で刻まれたメッセージは貴重ですし、それを共有できることも大切です。

私自身にも原体験があり、それで今も医師を続けることができていますし、何かあったら初心に戻ることができます。そういう原点を経営陣が持っていることは非常に重要です。理念の浸透度は目に見えるものではありませんが、少なくとも今ここにいる3人の原点が土台となってつくばセントラル病院が進んでいくことは確かです。

急性期医療と介護を繋ぐ

竹島前理事長 つくばセントラル病院の黎明期は、1988年に128床（A館）で開院してからの数年間です。当時は病床規制が迫って開院が相次ぎ、「茨城県南は日本一の病院の乱立地帯」と医療雑誌に紹介されたほどでした。そのため看護師不足が深刻でしたが、看護部や事務職員の頑張りによって危機を乗り越えることができました。



次が成長期で、2000年にB館、2002年にC館、2007年にD館を新設しました。B館は、当時まだ日本でも珍しかった緩和ケア病棟です。精神的・肉体的・社会的苦痛を取り除いていく緩和ケア医

療は、私たちの医療の原点に重なります。

そして成熟期を迎え、2022年に土浦リハビリテーション病院 介護治療院を開院しました。

介護については、1997年に最初の老人保健施設「ゆうあい」を開業しました。私の中には最初から「当院は急性期医療を中心として、退院したら介護施設へ移る」という構想がありました。その後も一貫して医療と介護の複合体を目指し、2000年には特別養護老人ホームを設立しています。医療従事者と介護職員が同じ部屋で会議をするので意思疎通がスムーズで、患者さんに行き届いたサービスができます。

金子新理事長 日本の高齢化は過去に類を見ないスピードで進んでおり、牛久市でも85歳以上の人口が今後も増え続けていきます。それを考えると、A館ができた後にすぐ「ゆうあい」を開設した竹島前理事長の先見性とリーダーシップには感服するばかりです。

つくばセントラル病院の医療と介護はシームレスに繋がっています。例えば、「急性期で治療を終えたが、すぐ家に帰れない事情がある」「療養病院や老人病院に入院するには遠くに行かなければならないが、住み慣れた地域にいたい」などの場合、若竹会グループ内で次の施設を患者さんに提供していくことができます。

このような体制を構築するには時間が必要ですが、私たちには開院当初からの積み重ねがあります。これからますます高齢者が増え介護が大切に

なっていく中で、私たちの体制がさらに力を発揮する時代となるでしょう。

金子病院長 病院というのは地域における砦です。言うなれば、人が病気になることは一つの戦のようなもので、家族にとっても一大事です。その難をいかに最小化していくか、いかにお役に立つかを考えると、やはり現在のつくばセントラル病院の体制しかないと思います。今の時代に本当に必要とされているものを、竹島前理事長がずっと昔から思索して現在の形へと発展させてくださったことに心から感謝しております。一朝一夕にはできない素晴らしい砦を、この地域につくりあげていただきました。きっと地域の皆さんも、同様に思ってくださっていることでしょう。これから先も地域の信頼に応えられるよう当院を発展させていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症への対応

竹島前理事長 近年の医療動向について、新型コロナウイルス感染症への対応をお話したいと思っています。2020年2月に横浜港のダイヤモンド・プリンセス号で発生した集団感染が大きなニュースになりました。茨城県内では3月の時点で一人も入院患者が出ていませんでしたが、金子病院長からコロナ患者の受け入れについて相談がありました。当時の医療制度では感染症指定医療機関が受け入れ先になると考えていましたが、「今後患者さんが増えて感染症指定医療機関だけでは間に合

わなくなり、当院に来院するようになったらどう対応すべきか」と相談を受けたわけです。

その時に金子病院長と話したのは「つくばセントラル病院は理念として地域医療を謳っているのだから、新型コロナウイルス感染症から地域を守る立場に立とう。そのために私たちにできる範囲のことをしよう」ということです。それからすぐに体制を整え、入院患者の受け入れをはじめ全ての管理を金子病院長が担ってくれました。

当院も開院当初に比べれば規模が大きくなりましたが、小回りが利いて一声かけると全職員がパツとついてくる雰囲気は保たれていたと感じます。方針が決まれば院内のすみずみまで思いが伝わり、みんなで動き出す柔軟性がありました。

金子病院長 今世紀に入って極めて大きな出来事の一つに地震や津波などの自然災害がありますが、やはり私たちの地域で一番大きい出来事と言えば、新型コロナウイルス感染症の蔓延が挙げられます。そのような事態に直面したとき、病院は戦に対する砦、いわば出城です。医師でありながら参戦しないのなら、持てる力を出さないことになります。私たちがその戦に打って出たことは、当院にとって大きな転換点だったと思います。

もちろん私一人でコロナ患者の受け入れができるはずもなく、多くの医療資源を投入する必要があります。医師、看護師、事務職員のチームワークでこの一大事を乗り越えようという発想が当院にはあったわけです。それは、これまで医療と介

護の連携をとってきたことや、過去から積み上げてきたチームワークが非常にうまく機能した結果だと受け止めています。人類史上の一大事にチーム一丸となって立ち向かったことが、今回の新型コロナウイルス禍の対応で当院が際立って良かった点だと自負しています。

果敢な決断が生んだ当院の強み

金子新理事長 私は腎臓内科で透析医療に携わっておりますので、地域包括ケアシステムと透析医療の面から近年の医療動向や当院の強みについてお話ししたいと思います。

国が地域包括ケアシステムを打ち出し、その施策が徐々に浸透しつつありますが、私たちが急性期病院を中心として若竹会グループ内で地域包括ケアシステムを構築してきたことは、非常に大きい意味があると言えるでしょう。

セントラル病院における透析医療は、竹島前理事長が始められた取り組みです。当時はまだ腎臓内科医がいなかったにもかかわらず、地域の透析患者さんのために決断し、自ら外科医としてシャント手術もされていました。当初は必要に迫られて導入したのだと思いますが、その英断が今日の充実した透析医療につながっています。

透析治療を受けるには、週3回病院へ通わなければなりません。問題は、透析患者さんの高齢化が進んでいることです。高齢の透析患者さんは具合が悪くなると急性期病院で治療を受けますが、



その後リハビリが必要になるなどの事情ですぐ家に帰れないケースが非常に多いのが実情です。そういう場合、次に行く施設を提供できるシステムが若竹会グループ内に構築されています。患者さんたちから感謝されますし、治療に当たっている私自身もそれが強みだと実感しています。

そういう意味でも、2022年11月に開院した土浦リハビリテーション病院 介護医療院は、若竹会グループの地域包括ケアシステムを強固にする非常に重要な布石となっています。回復期リハビリテーション病棟と介護施設が一体化した介護医療院は、県内初だと聞いています。若竹会グループの理念と医療を共有できる体制が、土浦地域までエリアを広げています。

金子病院長 当院が誇る先進医療のサイバーナイフは、竹島前理事長が10年前に導入されたものです。導入初期は患者数も少なく大きな赤字だったのではないかと推察します。さらに、最新型の強度変調放射線治療（IMRT）機器・ラジザクトも、竹島前理事長が導入を決断されました。建物を建てる

時点で「スペースを大きく確保しておいた方がよい」と先手を打たれていので、2022年10月にスムーズに導入することができました。

なぜこれほど大きな決断ができるのか私には考えも及びませんし、果たして自分が金子新理事長と一緒に同様の決断ができるかと想像すると、正直自信があり

ません。当院が先進医療を実施していると世の中に公言できるのは、ひとえに竹島前理事長のおかげだと思っています。

次に人材について、今後筑波大学の新しい先生方とどのように連携していくか、また当院がより若返っていく仕組みをどのように作っていくかが重要です。これまでの当院のスタンスは、すでに一人前となった医師をスカウトし、各々が技能を

発揮することで地域に貢献するということでした。しかし今はどの病院も、新しい人材をどれだけ糾合できるかに重点を置いています。当院も例

外ではなく、若い人材が働きたいと思える病院にできるかどうか極めて重要です。その点、先進医療を実施している、PCU（緩和ケア病棟）がある、産科がある、新しい前立腺治療を一から十まで学べるなど、若い医師から魅力的だと思われる要素は数多く揃っています。その基礎を築いてくださったのは竹島前理事長ですが、今後ますます若い医師がきてくれるよう研修医の受け入れ体制を整え、アピールし、育てていくのが私の仕事です。すでに昨年は研修医を5人応募して5人確保できました。今後も若い医師を育てられる病院とすることを目指します。

今後の展望

金子新理事長 35年という長きにわたってリーダーシップを発揮され、今日の若竹会グループを築き上げてくださった竹島前理事長の功績は、何物にも代えがたいものです。そう思うと私があれこれ語ることは憚られますが、『守成は創業より難し』（創業は易く守成は難し）という言葉もあるように、創業には創業の大変なご苦労があったと思いますが、それを守り育てていく苦労も、おそらく創業に匹敵するほど大変なものではないかと今ひしひしと感じています。それは大変すぎることものようにも感じられますが、次の時代をつくっていこうという強い気持ちを持っています。

一番大切なのは、病院の理念を全ての職員が共有して次の時代へと進んでいくことです。そのた



め、毎年4月に新入職員の入職式で必ず理念を伝えていきます。また、毎年11月23日に業績発表会を実施していますが、これは竹島前理事長が開院翌年の1989年から一年も休まず続けてこられたことです。最初はA館5階で昼休みに医師だけで実施していましたが、徐々に全職種に広がり、今では全職種が一堂に会しています。この業績発表会は職種間の交流や他部署の理解に繋がり、病院の理念や経営方針を共有する貴重な機会となっています。これからも4月の入職式と11月の業績発表会には、全職員で今後の病院のありようを共有してまいる所存です。

これまで、各年度の経営方針は竹島前理事長が年初にお示しくださり、私はそれを現場でどう実践していくかを考える受け身の立場でした。しかし、これからは私が経営方針を発信していく立場となります。もちろん今までの方針から大きく変わることはなく、理念をさらに太く広く充実させることを念頭においています。

喫緊の重要事項としては、病院全体や法人全体の食事の提供を「セントラルキッチン若竹」で一括化することや、新たな介護老人保健施設「セントラル阿見」の建設が挙げられます。また、医師の働き方改革、医療DXの取り組みも進めます。

「一人の人を大切にする」という病院の理念には、患者さんだけでなく、職員を大切にするという意味が込められています。当法人で働いてくださっている皆さんの教育や、働き手を大切にするという視点を今後ますます大切にしながら病院運営にあたることを、職員の皆さんにしっかりと伝

えてまいります。

金子病院長 今後の展望について、金子新理事長が十分に言い尽くしてくれました。私自身は、何か格好いいことを言うよりも、リーダーとしてハードワークを実践することで皆さんを引っ張っていければと思っています。泥臭い仕事を、自分らしくやっていくだけです。

チームで仕事をしていくために何が必要かは、大学時代の東日本医科学学生総合体育大会（東医体）での経験が私の核となっています。出場チームの一員として合宿に参加した時に、「キャプテンが自分の合宿所のトイレ掃除をできないようなチームは、勝ちようがない」と言われ、その通りだと思って今日までできました。私が今までと同じく、今後も人が一番嫌がる仕事を率先して行う姿勢を貫くことによって、多くの若い医師から「いい病院だね」と言ってもらえるようにしていきたいと思っています。

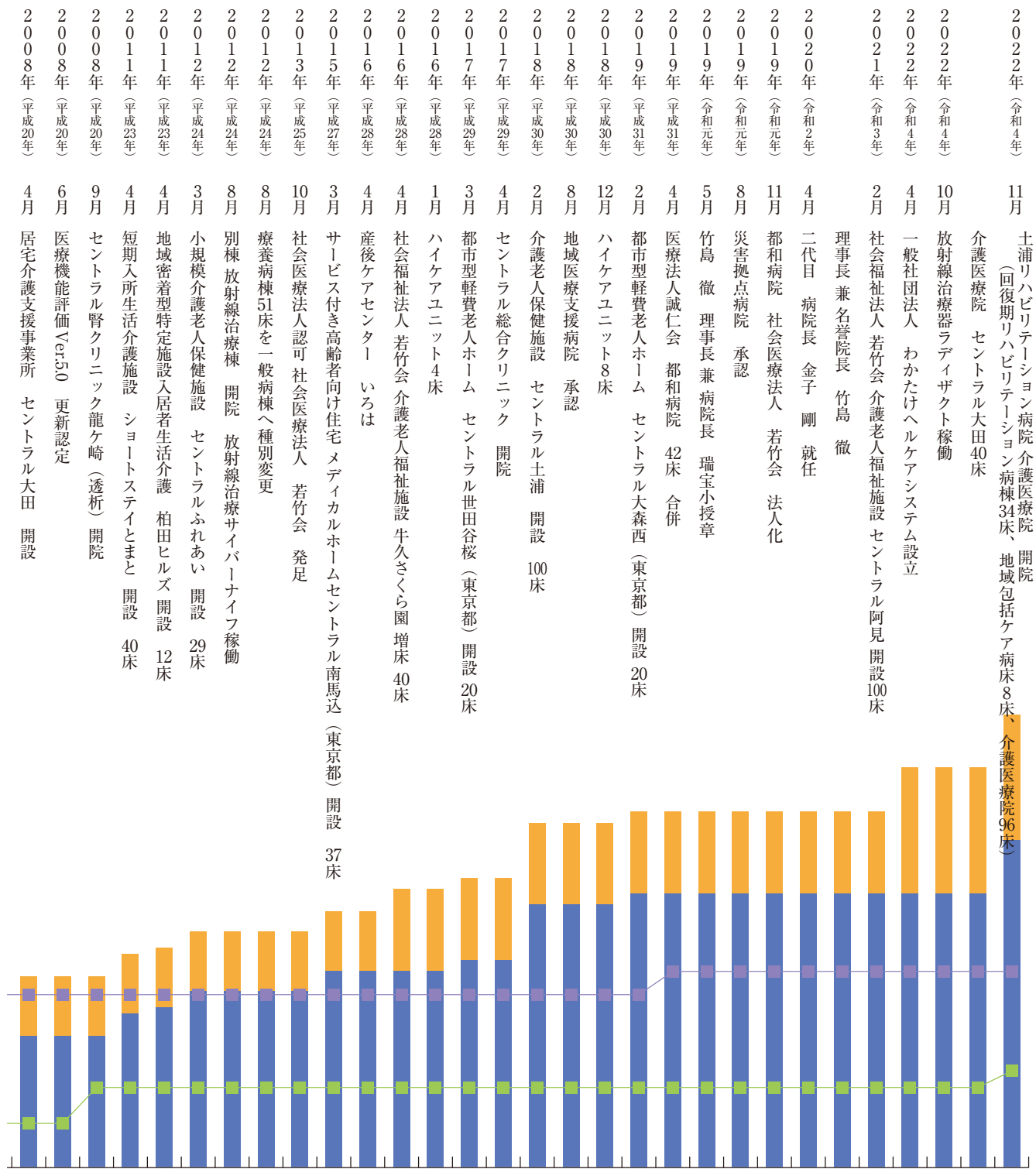
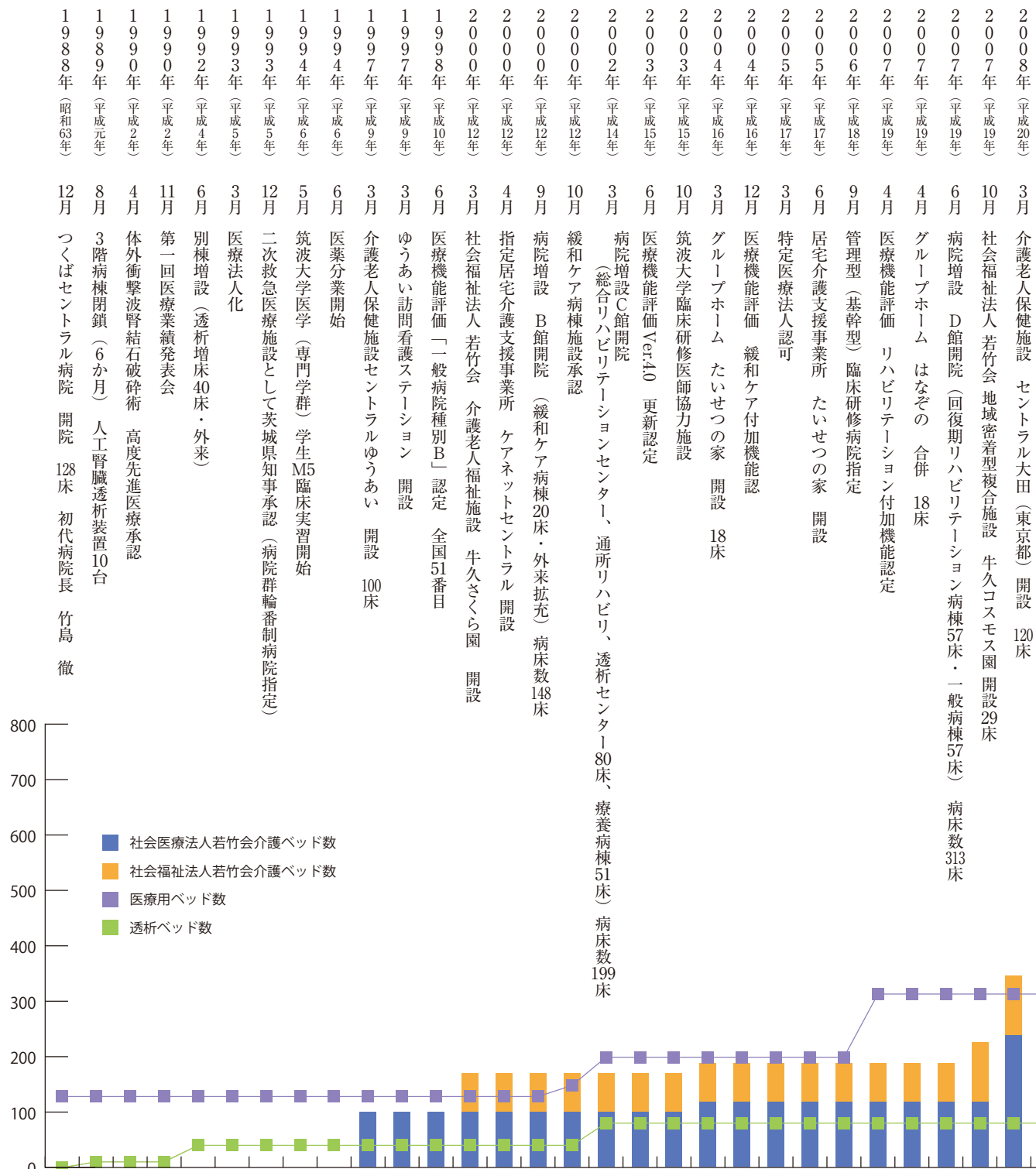
竹島前理事長 2人の決意と抱負を聞いて、病院の将来は盤石だと確信しました。私たちは地域密着型の社会医療法人として、これまでも、そしてこれからも、地域に根ざし、地域の皆さんを診て、地域のお役に立つことを何より大切にして歩み続けます。金子新理事長と金子病院長に舵取りを任せれば大丈夫、安心しました。



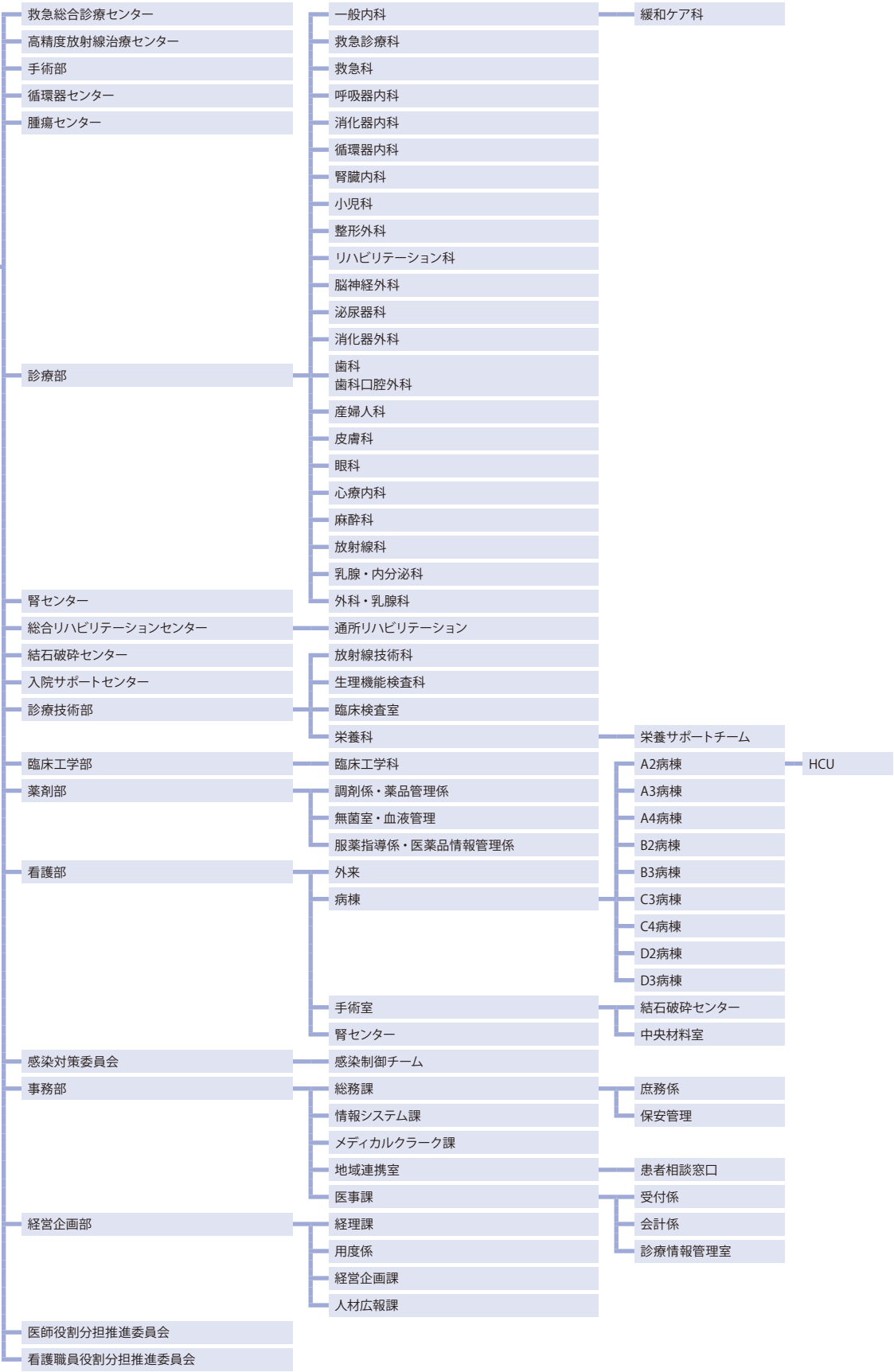


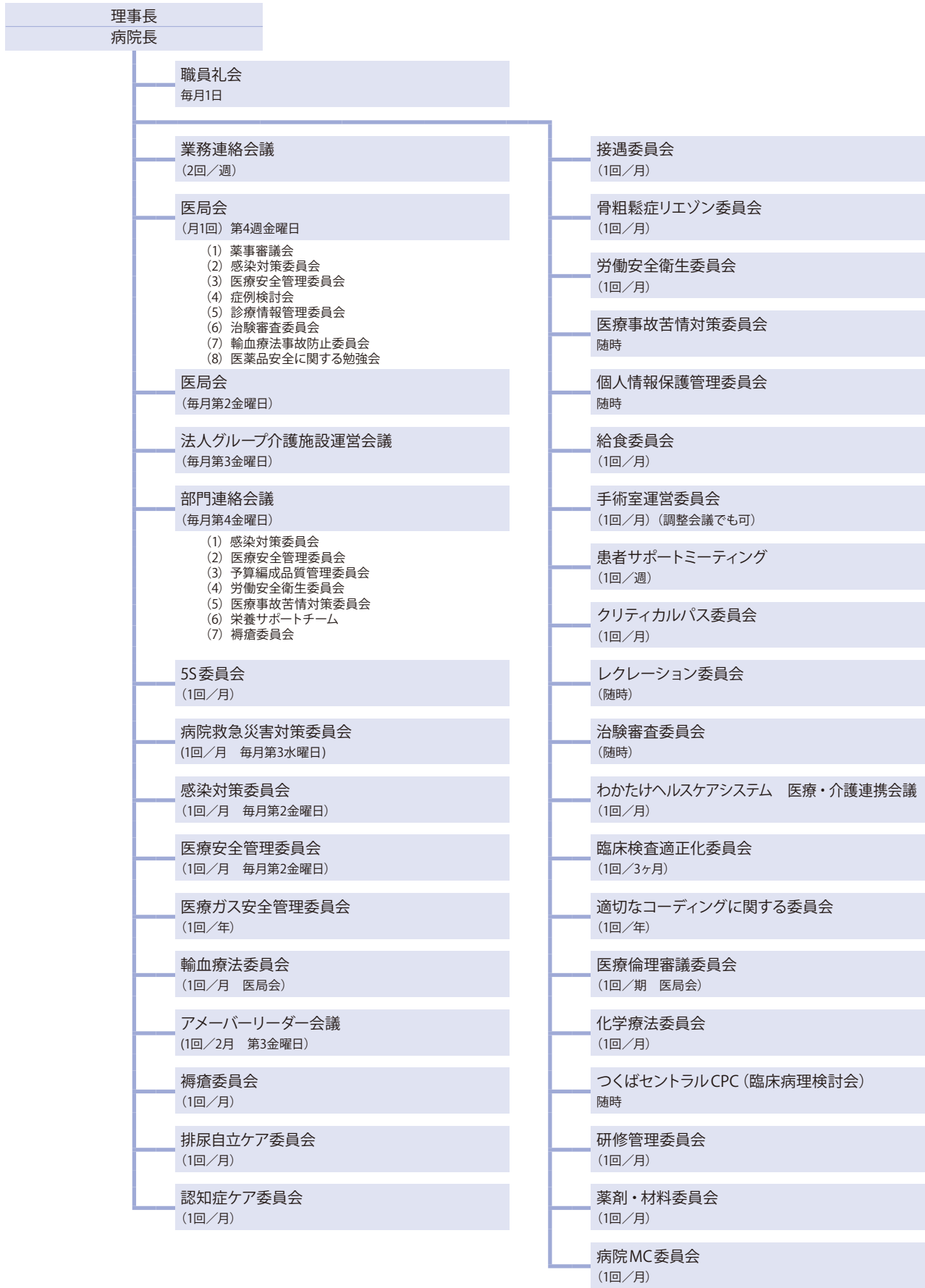
法人概要





社会医療法人若竹会 組織図





つくばセントラル病院			
職種	常勤職員	非常勤職員	非常勤常勤換算数
常勤医師	68	136	15
薬剤師	18	5	3.3
診療放射線技師	23	2	0.4
臨床工学技士	25		
臨床検査技師	18	6	3.7
理学療法士	41		
言語聴覚士	18	1	0.6
作業療法士	26		
視能訓練士	4	1	0.3
歯科衛生士	9		
管理栄養士	6		
栄養士		1	0.6
救急救命士	15		
看護師	265	22	15.5
助産師	24	9	5.4
保健師	3		
准看護師	13	5	4
看護助手・介護士（介護福祉士含む）	42	7	5.6
相談員	9		
事務	125	32	23.4
合計	752	227	77.8

その他 社会医療法人			
職種	常勤職員	非常勤職員	非常勤常勤換算数
常勤医師	12	45	6.2
薬剤師	2	1	0.2
臨床工学技士	13	2	1.9
理学療法士	43	1	0.1
言語聴覚士	9		
作業療法士	22	3	1.4
歯科衛生士		2	1
管理栄養士	7		
看護師	109	43	23.7
准看護師	8	14	7.7
看護助手・介護士（介護福祉士含む）	250	62	42.5
相談員	12		
介護支援専門員	22	1	0.6
マッサージ		1	1
事務	24	34	23
合計	533	209	109.3

社会福祉法人			
職種	常勤職員	非常勤職員	非常勤常勤換算数
理学療法士	1		
作業療法士	1	1	0.5
管理栄養士	3	1	0.1
調理員	1	4	1.6
調理師		1	0
看護師	4	17	8.3
准看護師	2	1	0.3
看護助手・介護士（介護福祉士含む）	82	22	11.2
相談員	3		
介護支援専門員	7		
機能訓練指導員	1		
事務	8	1	0.4
合計	113	48	22.4

施設基準（基本診療科）

2023年10月1日時点

- 情報通信機器を用いた診療に係る基準

○地域歯科診療支援病院歯科初診料

○歯科外来診療環境体制加算2

○一般病棟入院基本料

○褥瘡対策チーム

○救急医療管理加算

○診療録管理体制加算1

○医師事務作業補助体制加算1（15対1）

○急性期看護補助体制加算

○療養環境加算

○栄養サポートチーム加算

○医療安全対策加算1

○感染対策向上加算2（連携強化加算・サーベイランス強化加算）

○連携強化加算

○サーベイランス強化加算

○患者サポート体制充実加算

○重症患者初期支援充実加算

○ハイリスク妊娠管理加算

○ハイリスク分娩管理加算
- 後発医薬品使用体制加算1

○病棟薬剤業務実施加算1

○病棟薬剤業務実施加算2

○データ提出加算2.4

○入退院支援加算1

○総合機能評価加算

○認知症ケア加算2

○せん妄ハイリスク患者ケア加算

○精神疾患診療体制加算

○排尿自立支援加算

○地域医療体制確保加算

○看護職員処遇改善評価料

○ハイケアユニット入院医療管理料1

○早期栄養介入管理加算

○回復期リハビリテーション病棟入院料1

○体制強化加算

○リハビリテーション充実加算

○緩和ケア病棟入院料2

○短期滞在手術等基本料1

○術後疼痛管理チーム加算



施設基準等（特掲診療科）

2023年10月1日時点

- 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算

○がん性疼痛緩和指導管理料

○乳腺炎重症化予防ケア・指導料

○二次性骨折予防継続管理料1

○二次性骨折予防継続管理料2

○院内トリアージ実施料

○外来放射線照射診療料

○夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算

○ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）

○がん治療連携指導料

○外来排尿自立指導料

○ハイリスク妊産婦連携指導料1

○肝炎インターフェロン治療計画料

○薬剤管理指導料

○地域連携診療計画加算

○医療機器安全管理料1

○医療機器安全管理料2

○歯科治療時医療管理料

○歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料

○在宅療養後方支援病院

○在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

○遺伝学的検査

○BRCA1／2遺伝子検査

○HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）

○検体検査管理加算（Ⅰ）

○検体検査管理加算（Ⅱ）

○長期継続頭蓋内脳波検査

○脳波検査判断料1

○神経学的検査

○ロービジョン検査判断料

○コンタクトレンズ検査料1

○CT透視下気管支鏡検査加算

○CT撮影及びMRI撮影

○抗悪性腫瘍剤処方管理加算

○無菌製剤処理科

○心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

○脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）

○運動器リハビリテーション料（Ⅰ）

○呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

○歯科口腔リハビリテーション料2

○人工腎臓
- 導入期加算1

○透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

○下肢末梢動脈疾患指導管理加算

○CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー

○椎間板内酵素注入療法

○脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術

○脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

○癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）

○仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）

○仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）

○経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）

○ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

○大動脈バルーンパンピング法（IABP法）

○体外衝撃波胆石破碎術

○内視鏡的小腸ポリープ切除術

○体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

○膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰莖手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開による）（医師2名以上）

○人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

○麻酔管理料（Ⅰ）

○放射線治療専任加算

○外来放射線治療専任加算

○一回線量増加加算（全乳房・前立腺照射）

○強度変調放射線治療（IMRT）

○画像誘導放射線治療（IGRT）

○体外照射呼吸性移動対策加算

○定位放射線治療

○定位放射線治療呼吸性移動対策加算（動体追尾法）

○高エネルギー放射線治療

○保険医療機関間の連携による病理診断

○クラウン・ブリッジ維持管理料

○がん患者指導管理料Ⅰ

○がん患者指導管理料Ⅱ

○食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）

わかたけヘルスケアシステム 施設案内

社会医療法人 若竹会

茨城エリア

・牛久市
・土浦市
・龍ケ崎市



つくばセントラル病院

〒300-1211
茨城県牛久市
柏田町1589-3
Tel. 029-872-1771
Fax. 029-874-4763



介護老人保健施設 セントラル土浦

〒300-0053
茨城県土浦市
真鍋新町12-10
Tel. 029-893-6100
Fax. 029-893-6101



セントラル総合 クリニック

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田4-58-1
Tel. 029-875-3511
Fax. 029-875-3533



通所介護・認知症対応型共同生活介護 デイサービス・グループホーム たいせつの家

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田1-17-20
Tel. 029-830-8633
Fax. 029-830-8635



セントラル 腎クリニック龍ケ崎

〒301-0004
茨城県龍ケ崎市
馴馬町2668-1
Tel. 0297-62-1212
Fax. 0297-64-1117



地域密着型特定施設入居者生活介護 柏田ヒルズ

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田4-53-10
Tel. 029-872-8135
Fax. 029-830-7744



土浦リハビリ テーション病院 介護医療院

〒300-0053
茨城県土浦市
真鍋新町11-7
Tel. 029-875-7888
Fax. 029-875-7771



短期入所生活介護施設 ショートステイ とまと

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田1-17-19
Tel. 029-871-1003
Fax. 029-871-1006



介護老人保健施設 セントラルゆうあい

〒300-1211
茨城県牛久市
柏田町1590-3
Tel. 029-872-8833
Fax. 029-874-2418



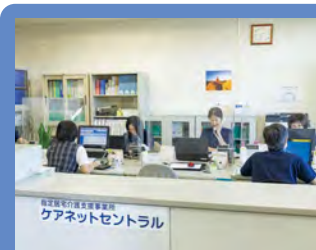
訪問看護 ゆうあい訪問看護 ステーション

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田4-58-1
Tel. 029-874-2280
Fax. 029-874-2839



介護老人保健施設（サテライト型） セントラルふれあい

〒300-1211
茨城県牛久市
柏田町1604-6
Tel. 029-872-8851
Fax. 029-872-8915



指定居宅介護支援事業所 ケアネットセントラル

〒300-1211
茨城県牛久市
柏田町1590-3
Tel. 029-872-8800
Fax. 029-872-8802

社会福祉法人 若竹会

茨城エリア

・牛久市
・阿見町



高齢者総合福祉施設 牛久さくら園

〒300-1232
茨城県牛久市
上柏田1-18-4
Tel. 029-878-0711
Fax. 029-878-0716



有料老人ホーム / 認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 牛久コスモス園

〒300-1286
茨城県牛久市
小坂町3388-1
Tel. 029-830-8861
Fax. 029-830-8863



特別養護老人ホーム セントラル阿見

〒300-1152
茨城県稲敷郡阿見町
荒川本郷179-23
Tel. 029-893-6868
Fax. 029-893-6860

社会医療法人 若竹会

東京エリア

・大田区
・世田谷区



介護老人保健施設 介護医療院 セントラル大田

〒143-0024
東京都大田区
中央8-34-10
Tel. 03-3755-5300
Fax. 03-6426-2317



サービス付き高齢者向け住宅 メディカルホーム セントラル南馬込

〒143-0025
東京都大田区
南馬込3-25-5
Tel. 03-6303-8565
Fax. 03-6303-8562



都市型軽費老人ホーム セントラル大森西

〒143-0015
東京都大田区
大森西4-3-5-307
Tel. 03-6423-0724
Fax. 03-6423-0744



都市型軽費老人ホーム セントラル世田谷桜

〒156-0053
東京都世田谷区
桜3-29-8
Tel. 03-6413-1751
Fax. 03-6413-1753



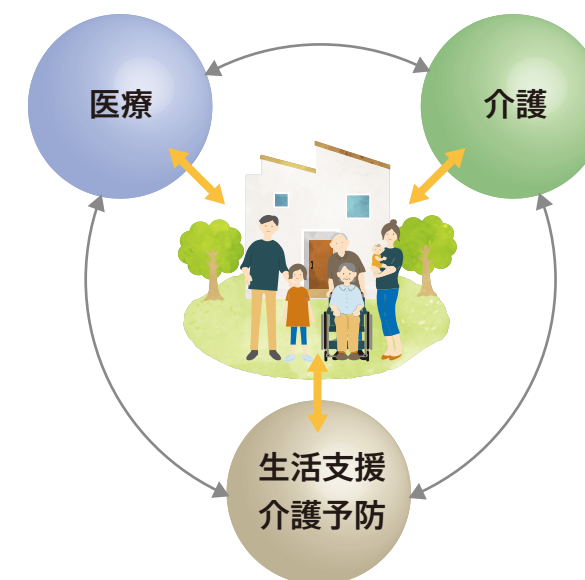
指定居宅介護支援事業所 セントラル大田

〒143-0015
東京都大田区
大森西4-3-5-307
Tel. 03-6423-0721
Fax. 03-6423-0726



訪問看護ステーション セントラル大森西

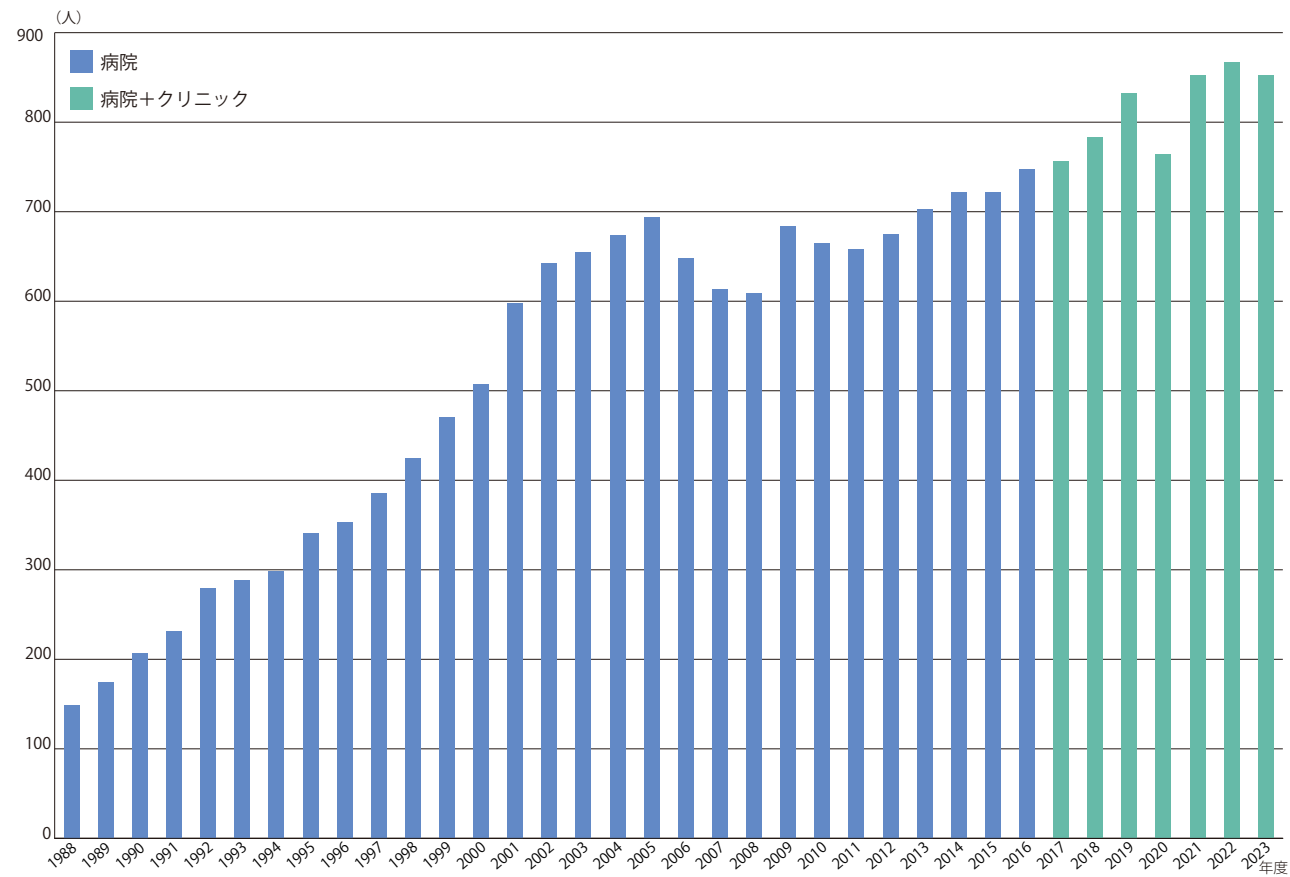
〒143-0015
東京都大田区
大森西4-3-5-307
Tel. 03-5763-5511
Fax. 03-6423-0726



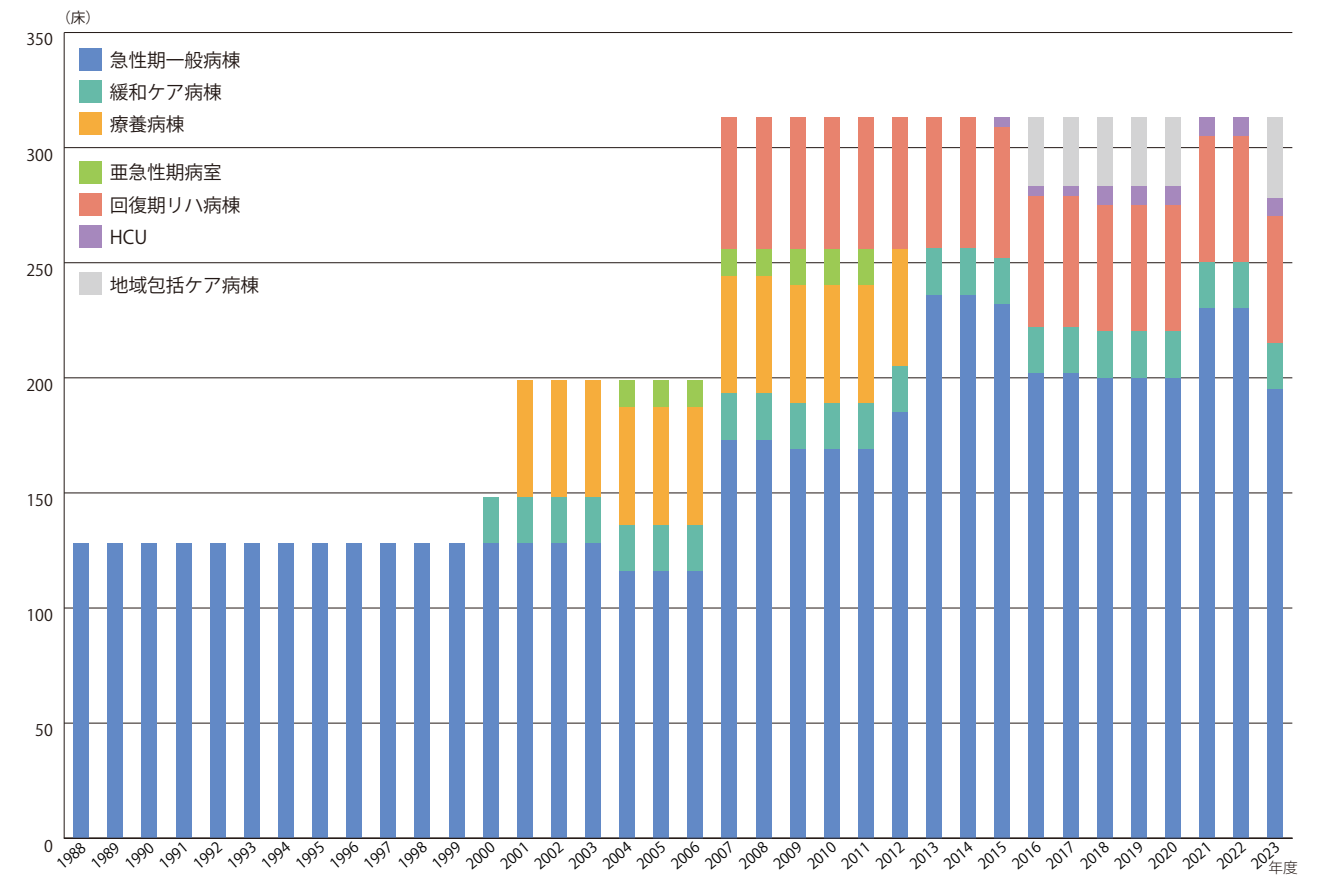
実績



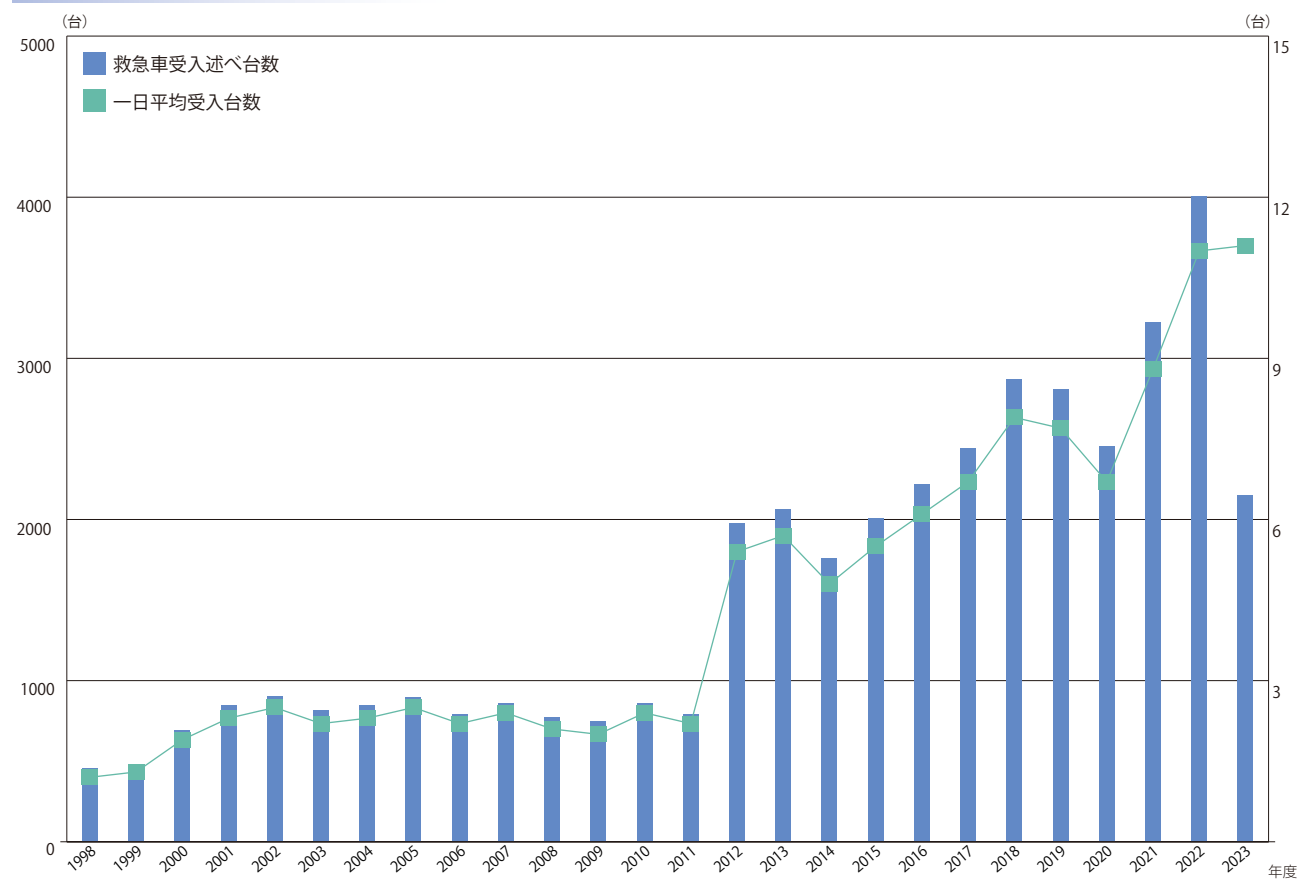
一日平均外来患者数



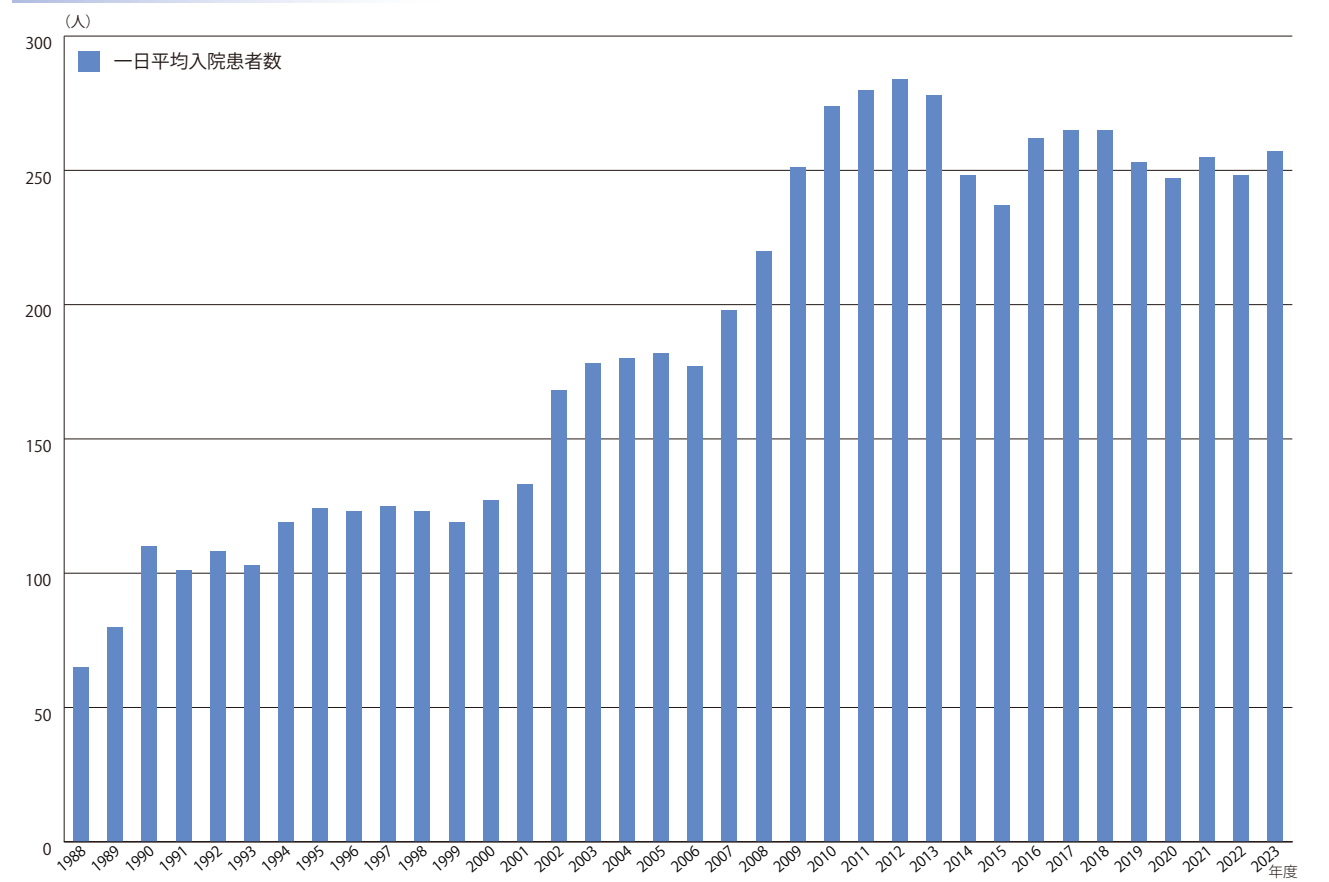
病床機能別の病床数の変遷



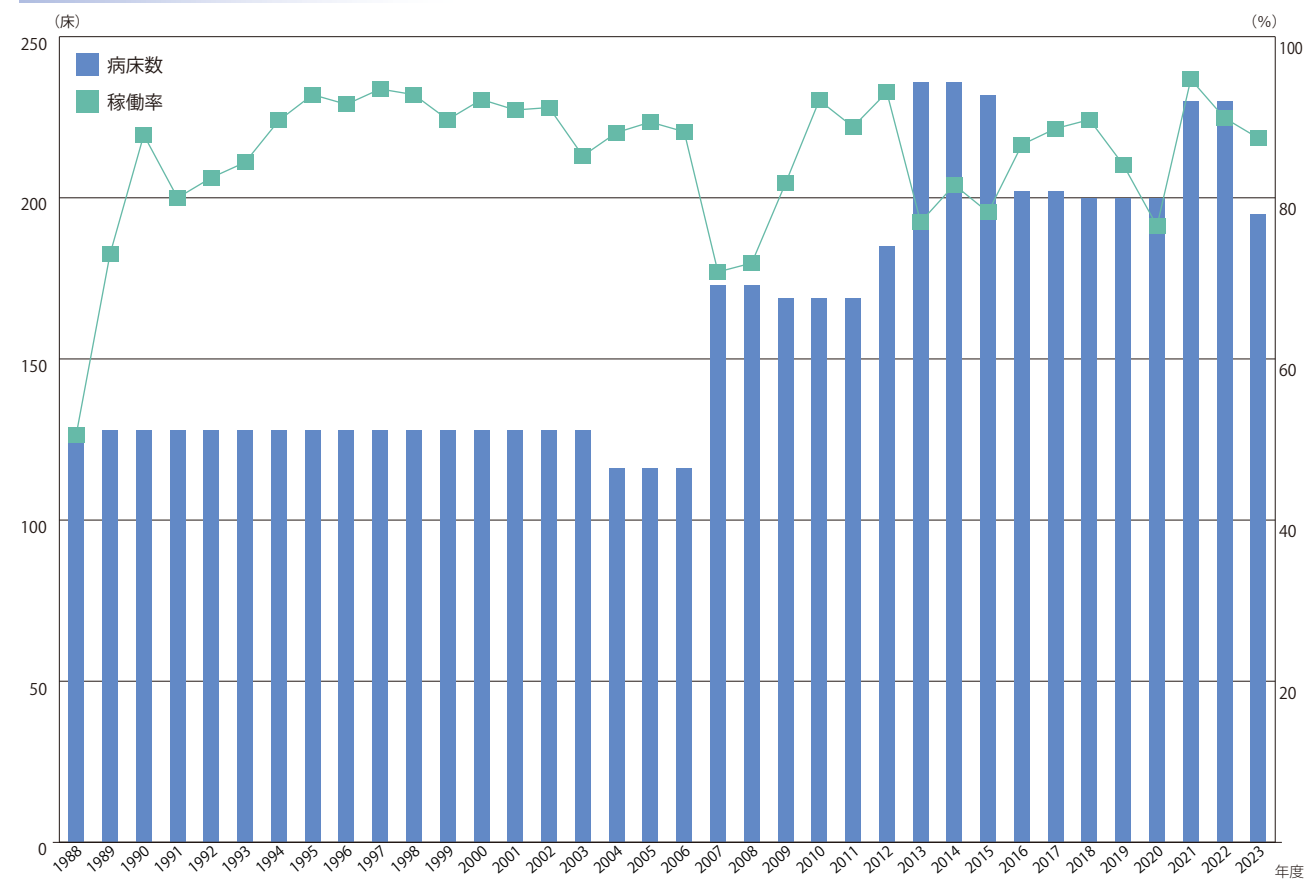
救急車受入延べ台数および一日平均受入数の推移



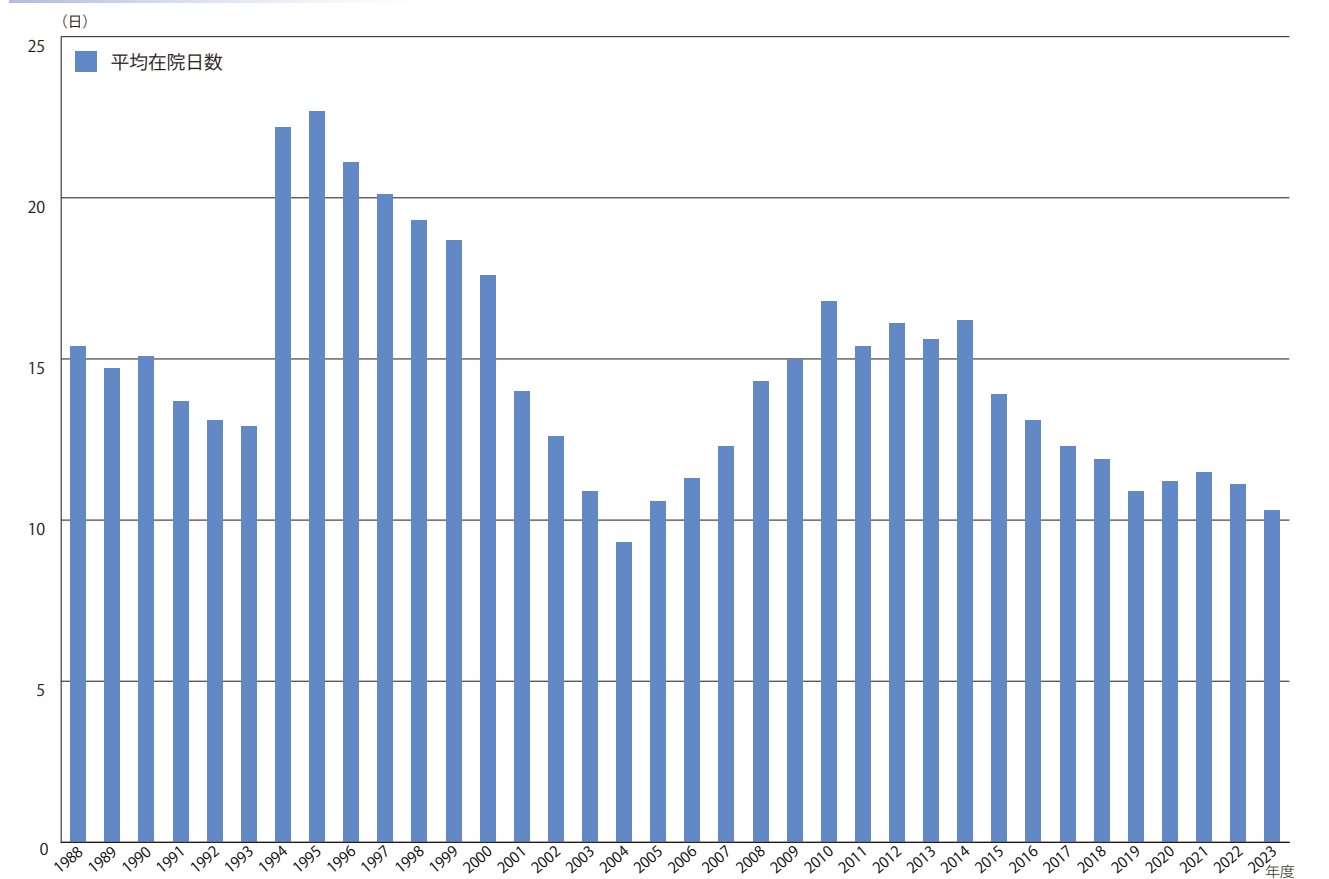
一日平均入院患者数（全病棟）



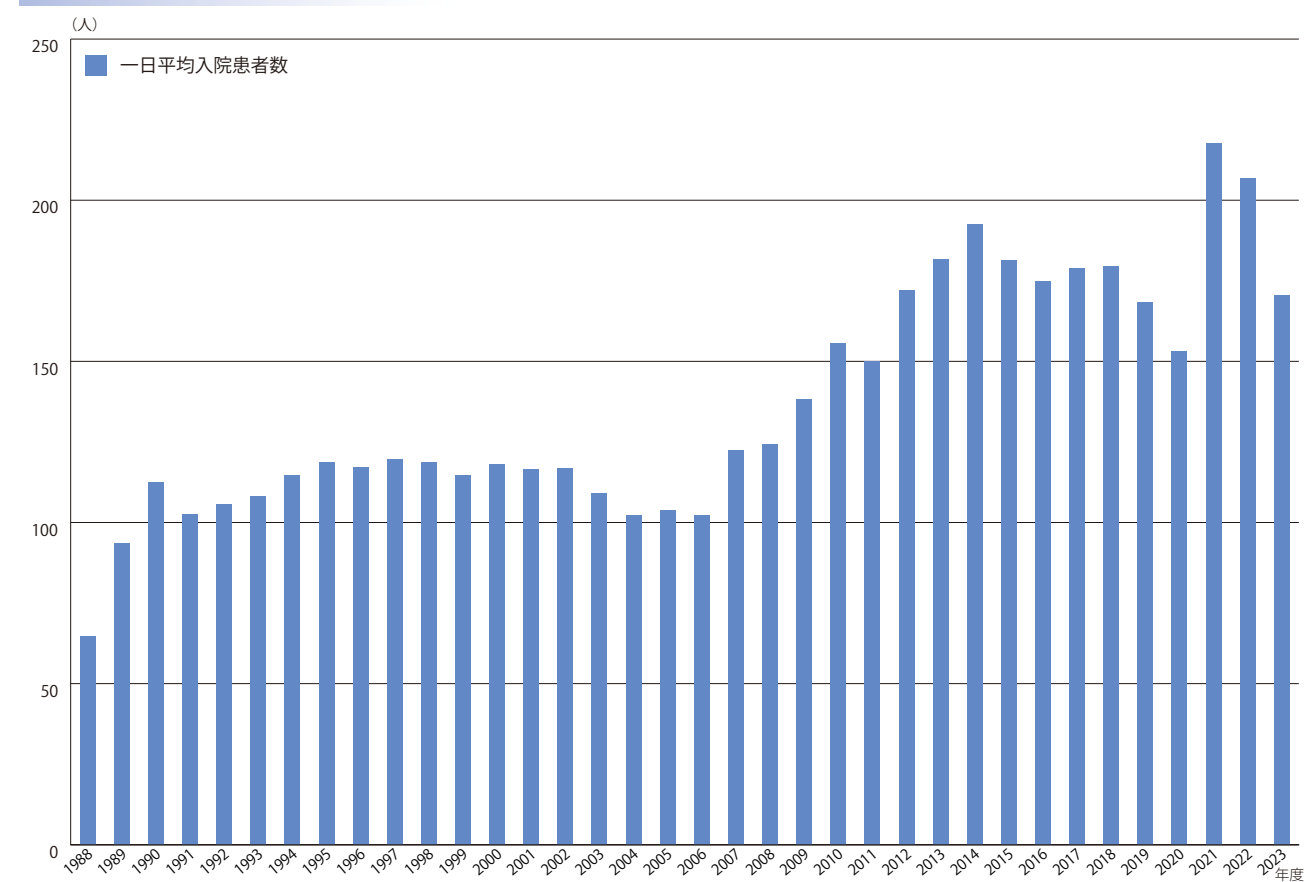
急性期一般病棟 病床数と稼働率



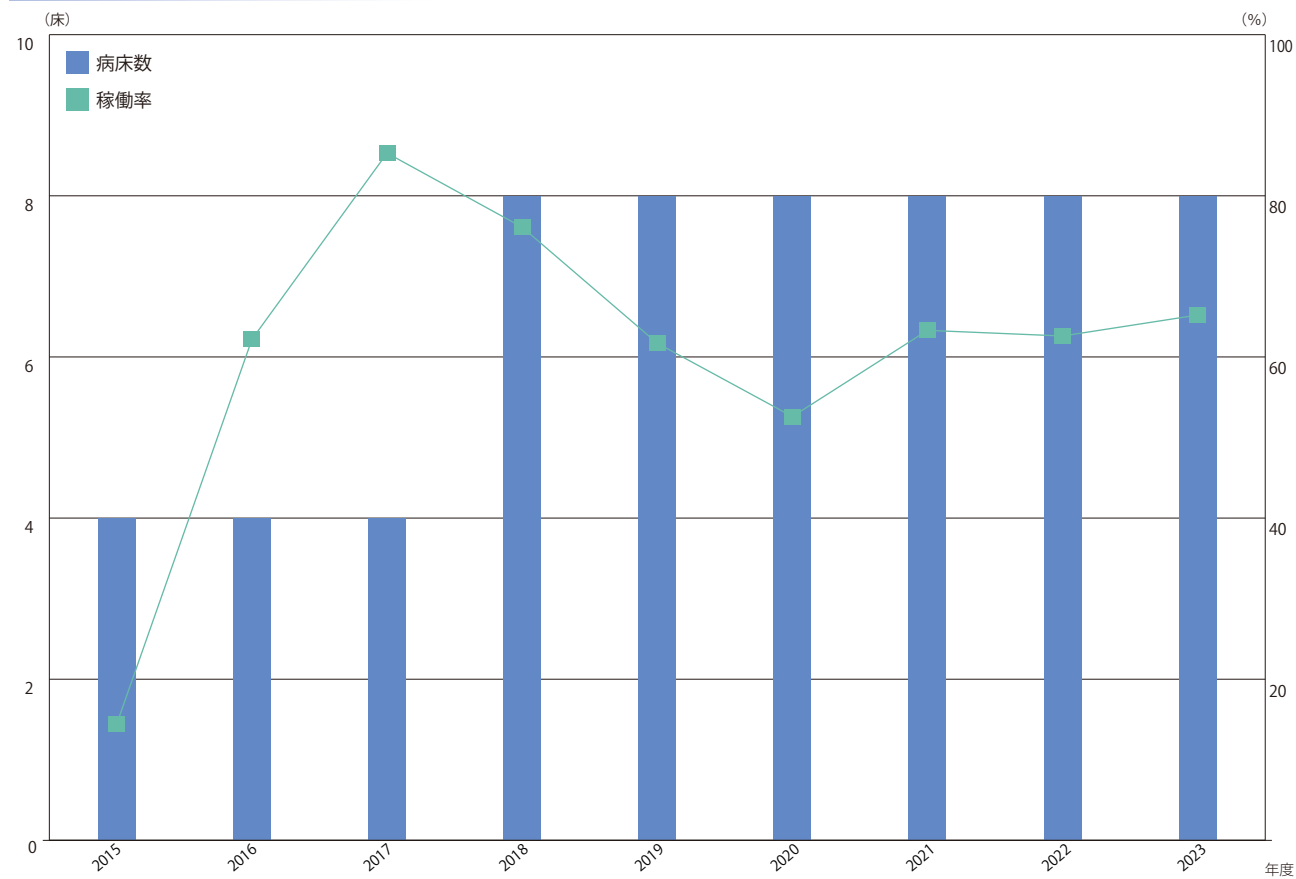
急性期一般病棟 平均在院日数



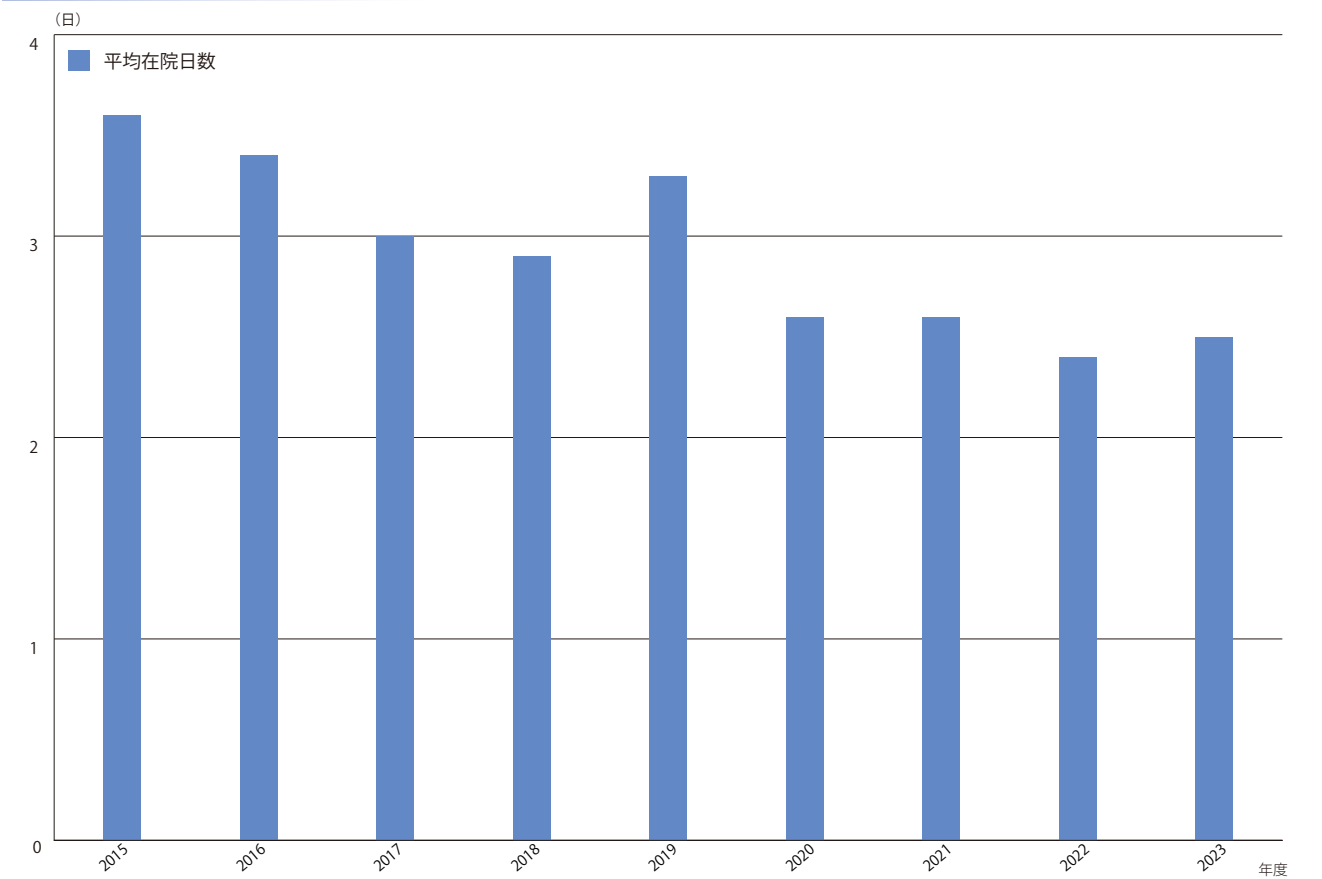
急性期一般病棟 一日平均入院患者数



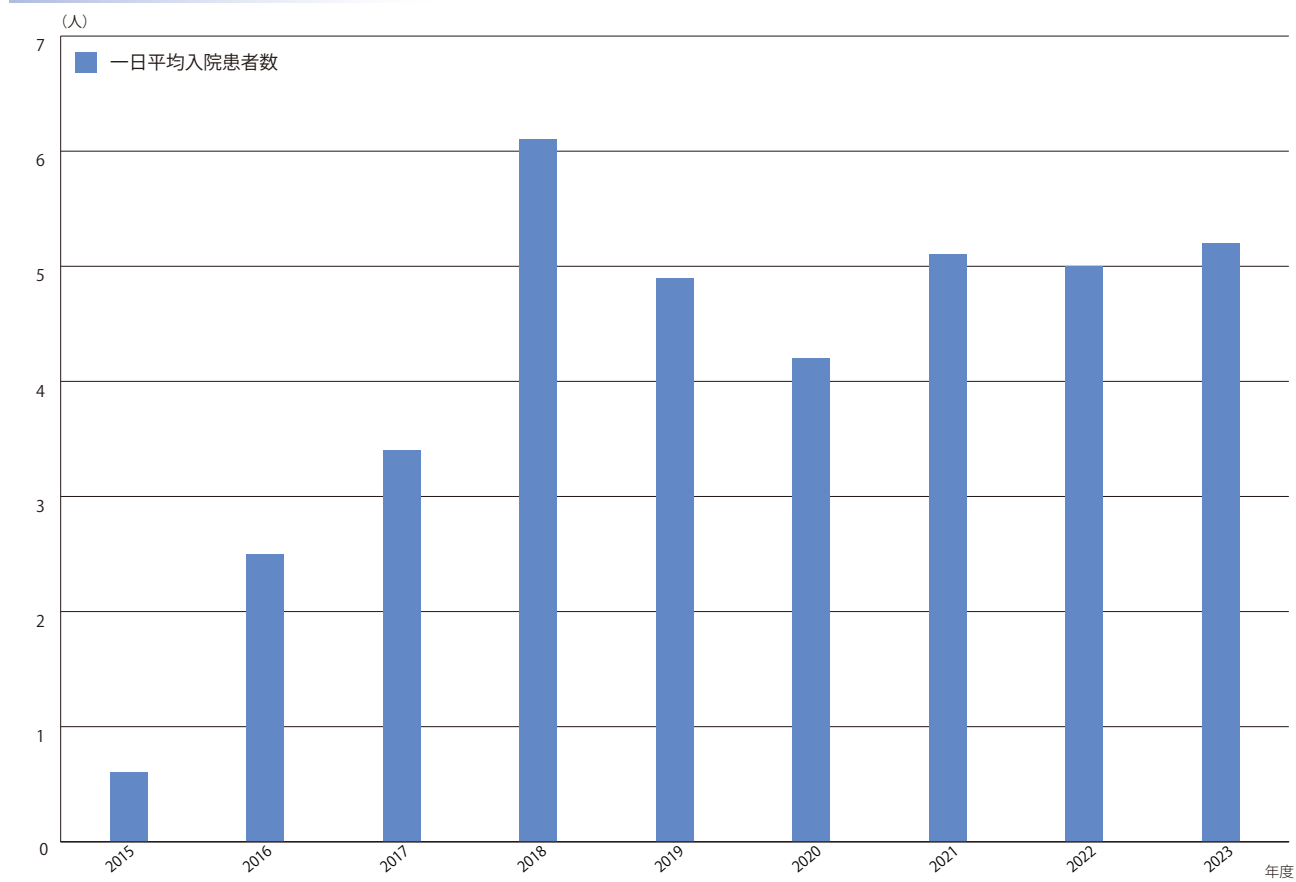
HCU 病床数と稼働率



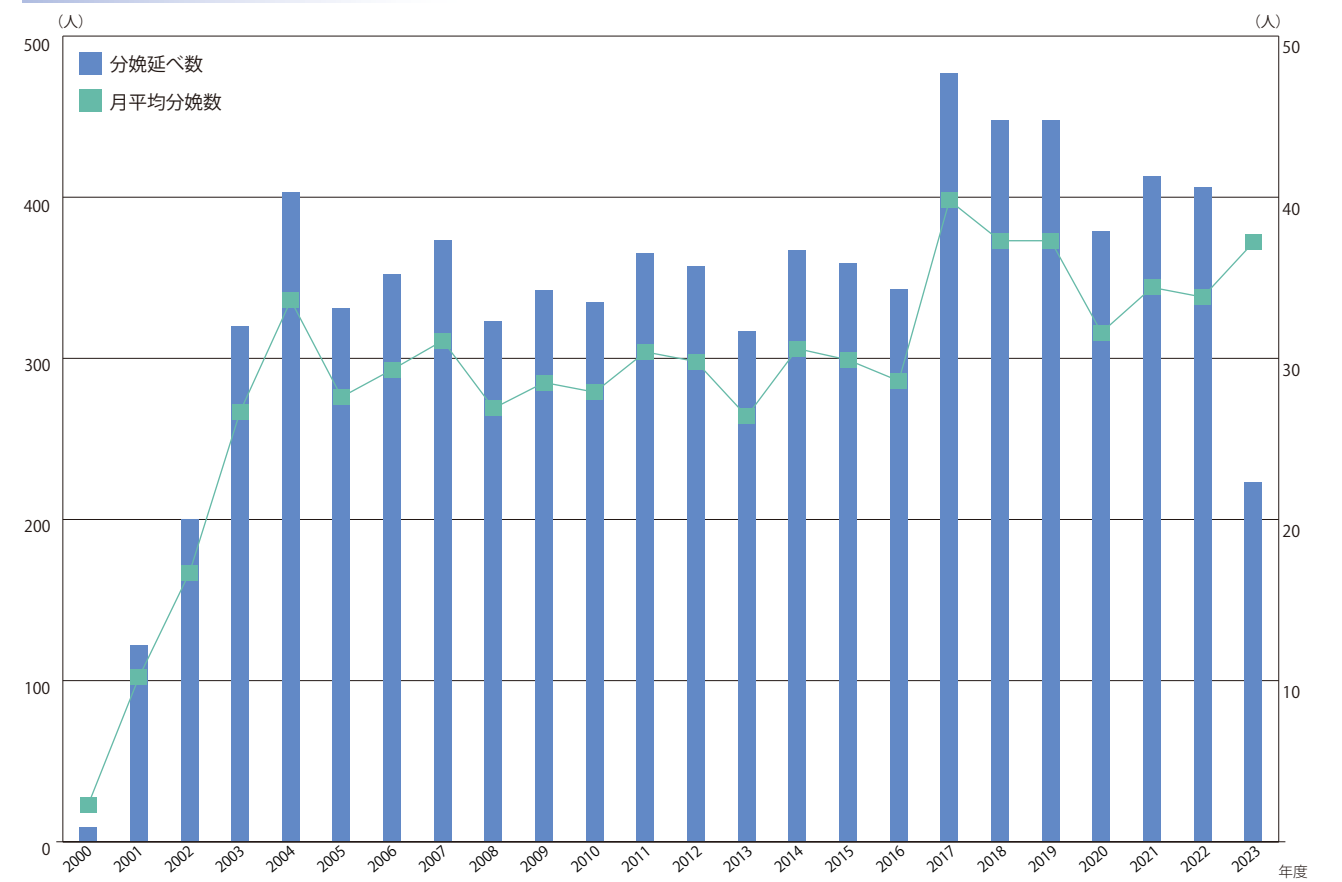
HCU 平均在院日数



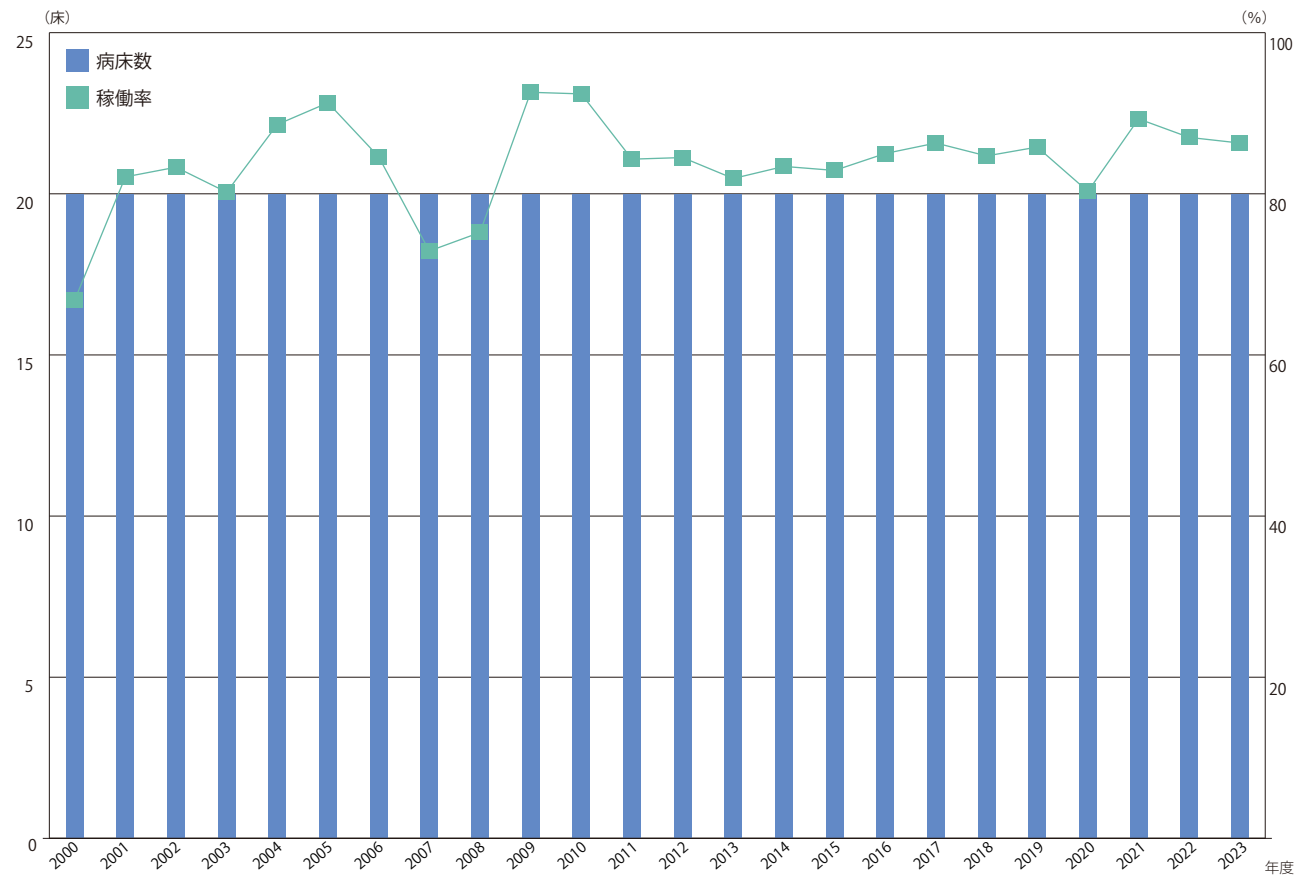
HCU 一日平均入院患者数



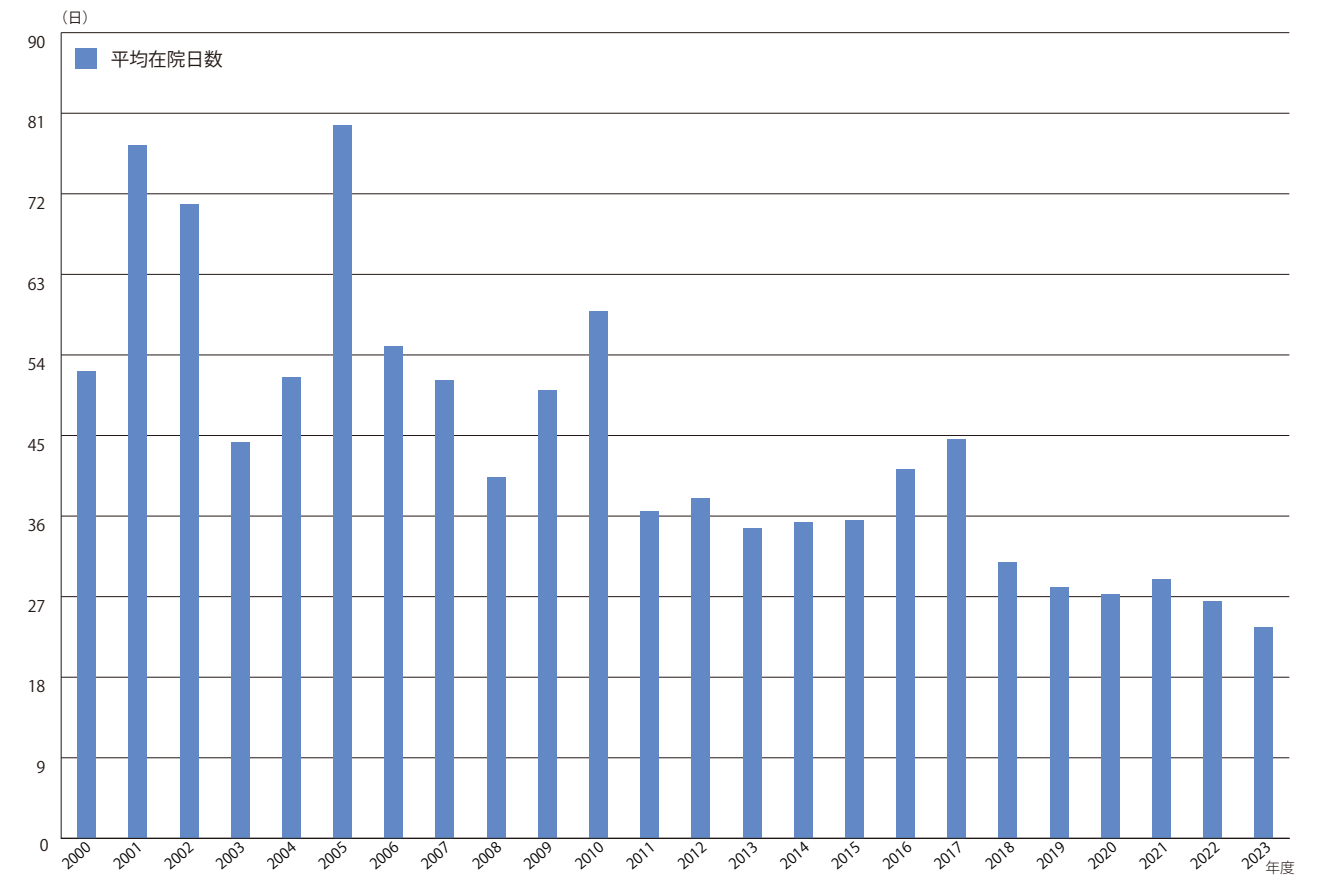
分娩延べ数と月平均分娩数



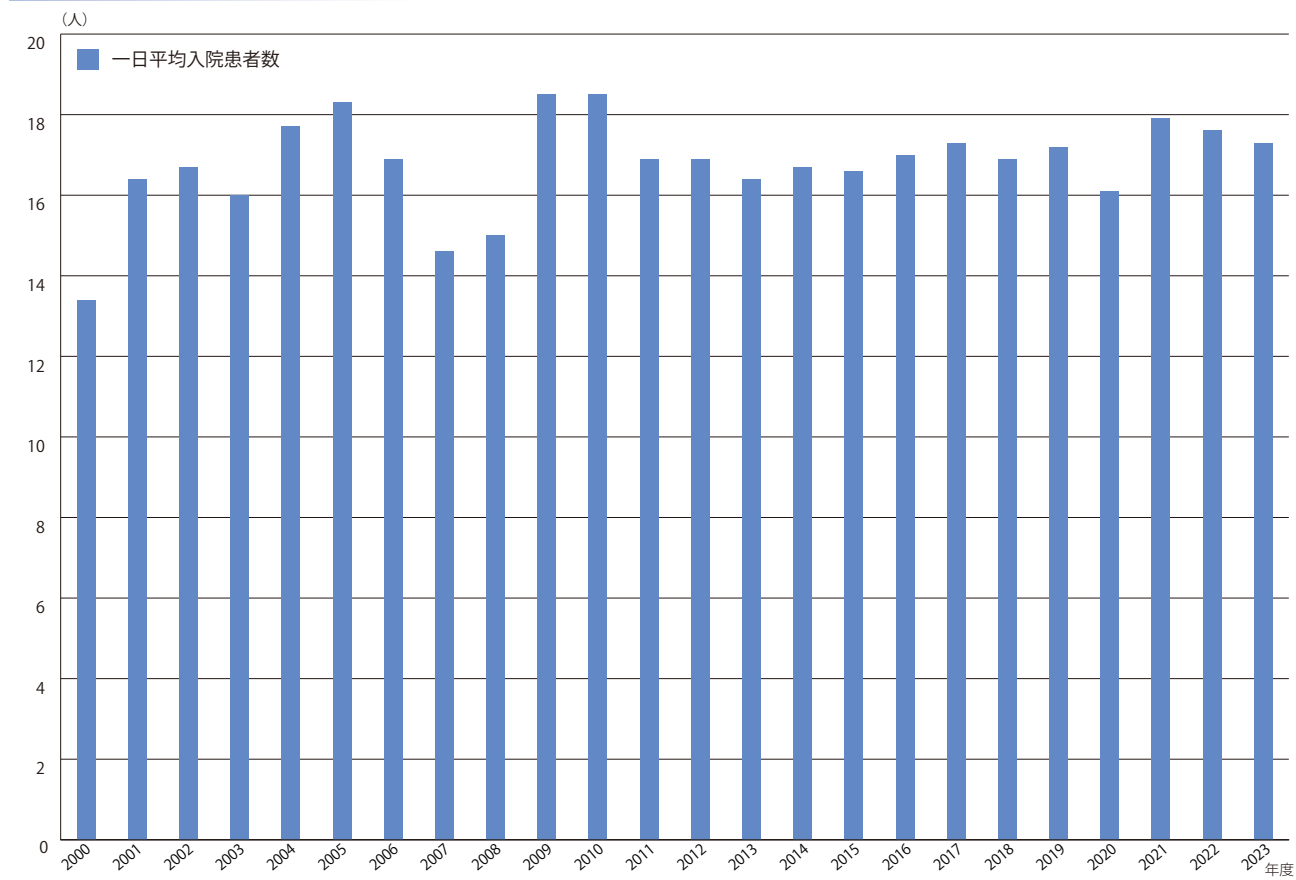
緩和ケア病棟 病床数と稼働率



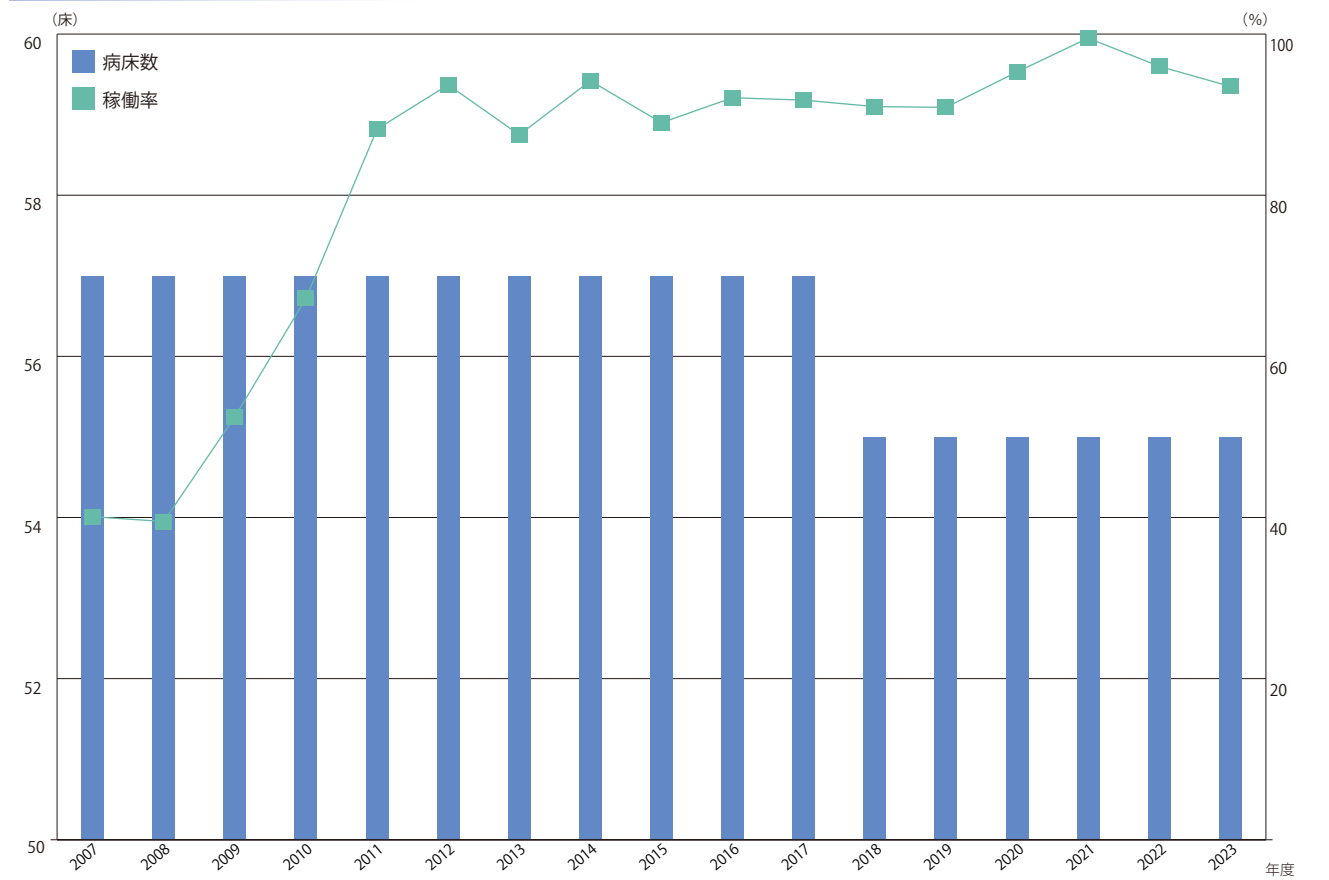
緩和ケア病棟 平均在院日数



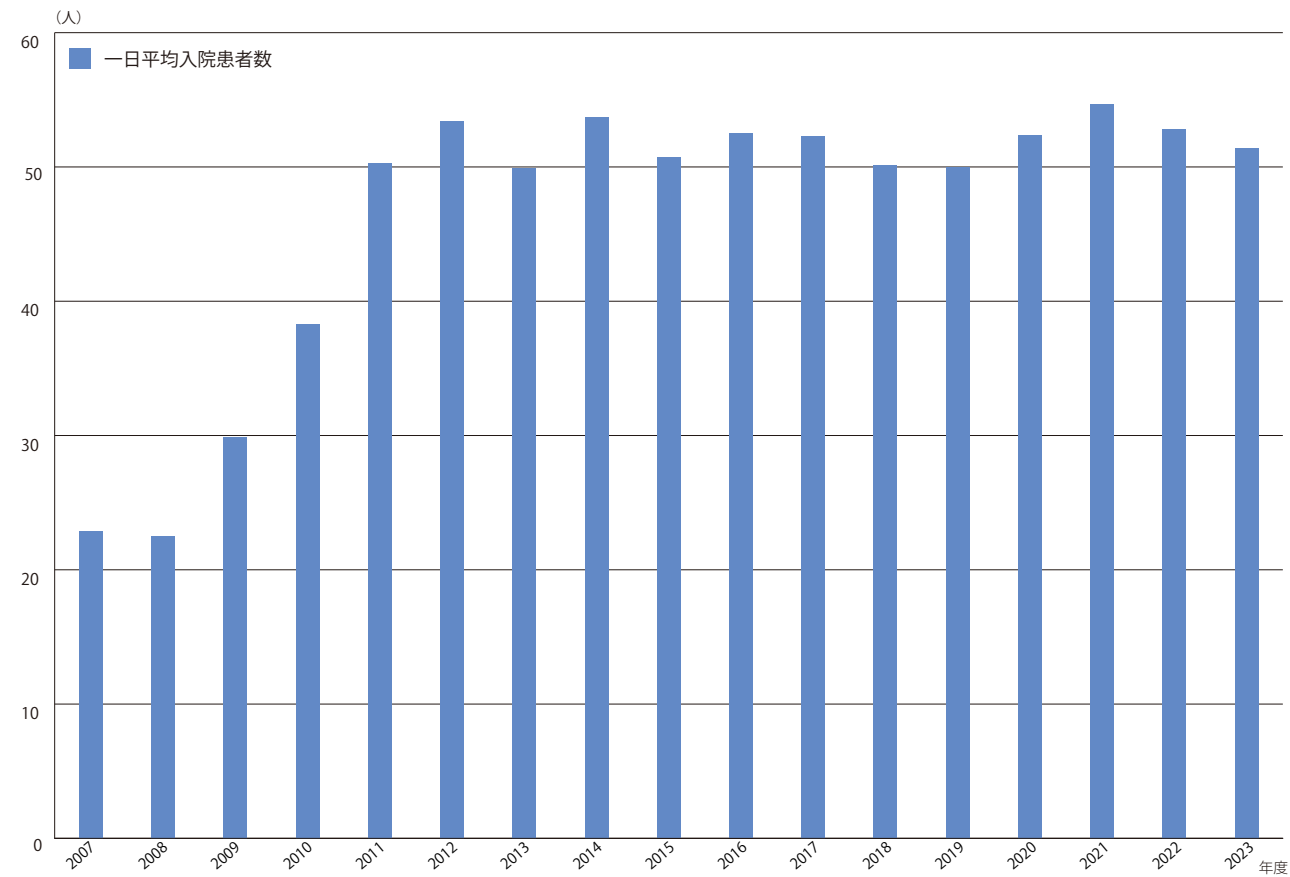
緩和ケア病棟 一日平均入院患者数



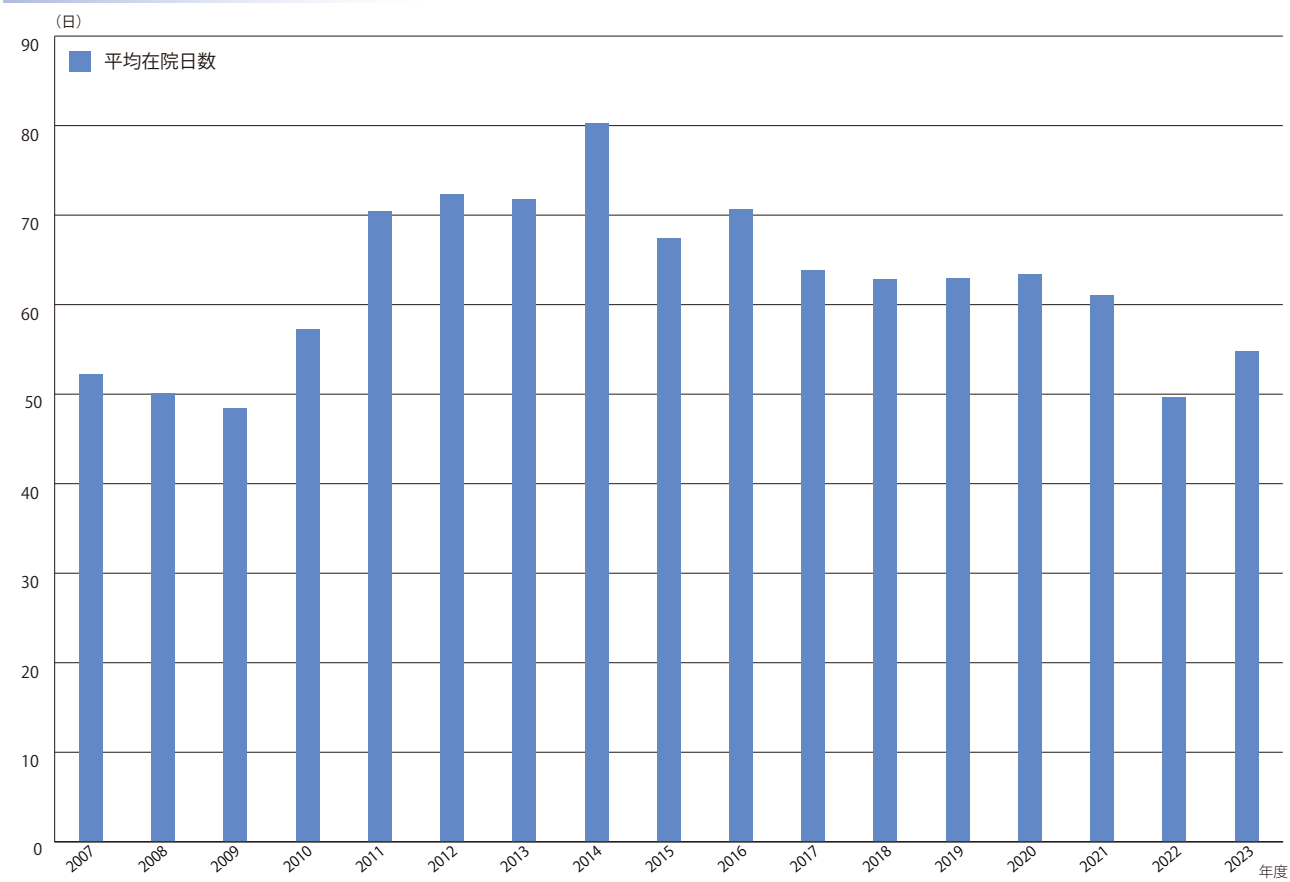
回復期リハビリテーション病棟 病床数と稼働率



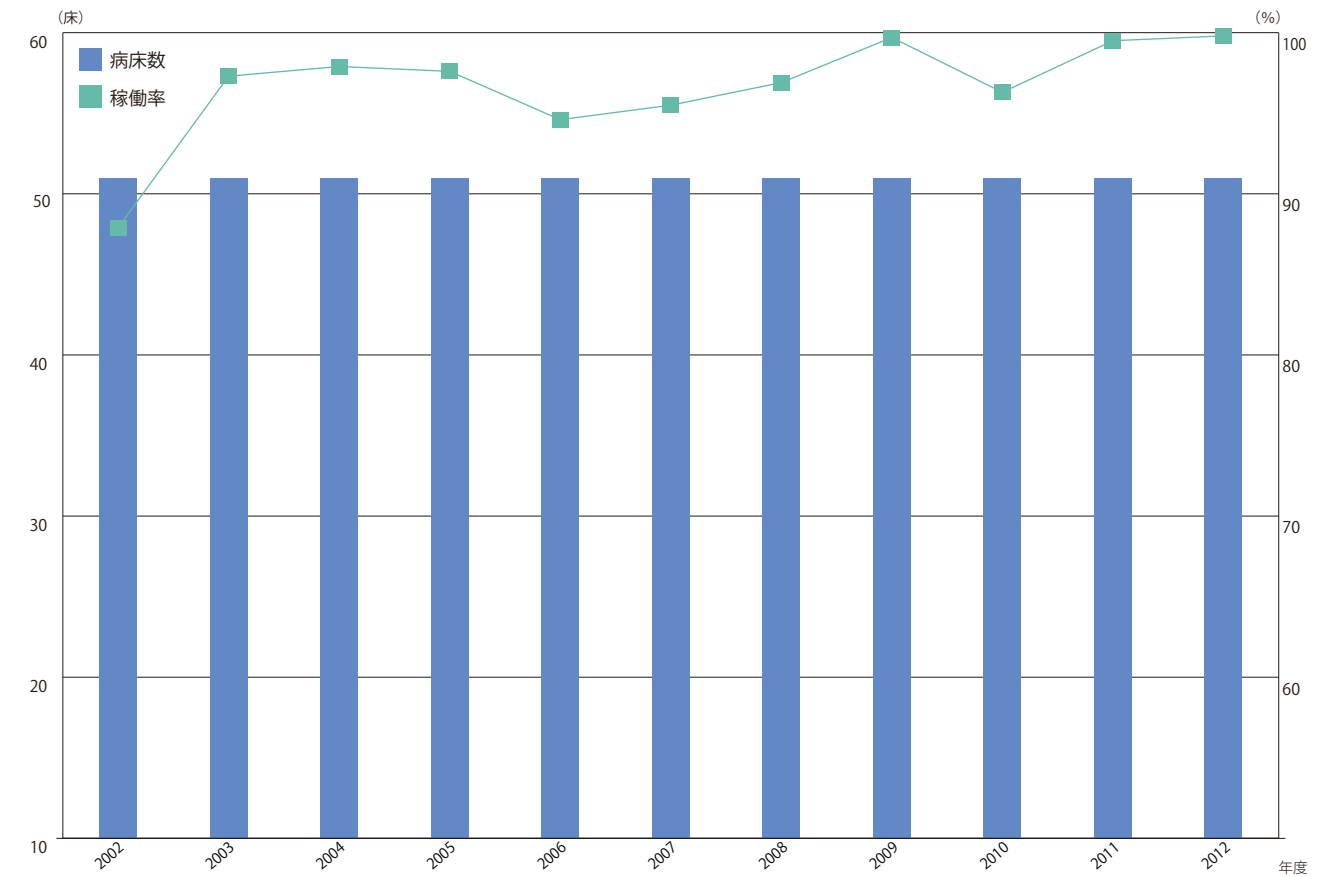
回復期リハビリテーション病棟 一日平均入院患者数



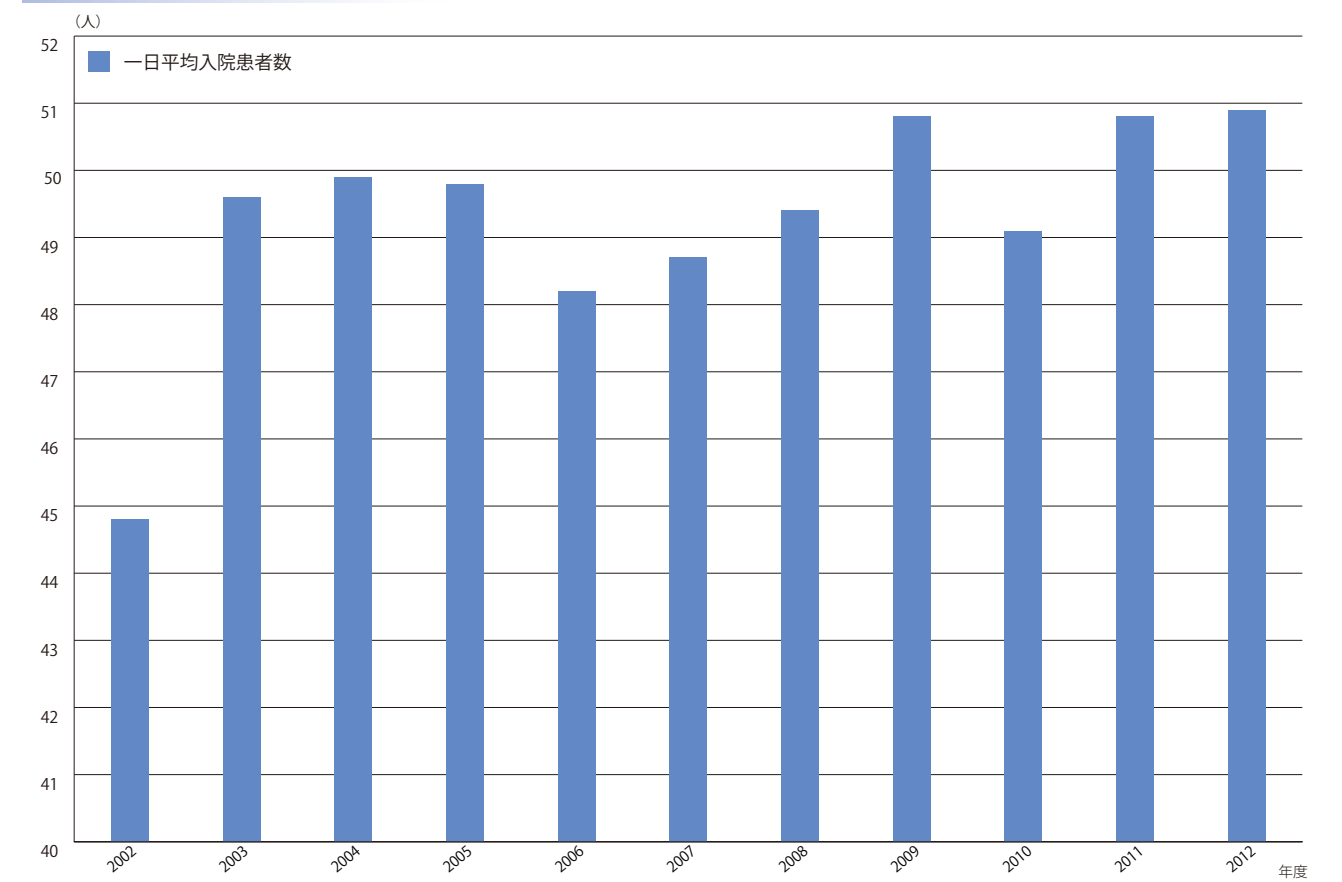
回復期リハビリテーション病棟 平均在院日数



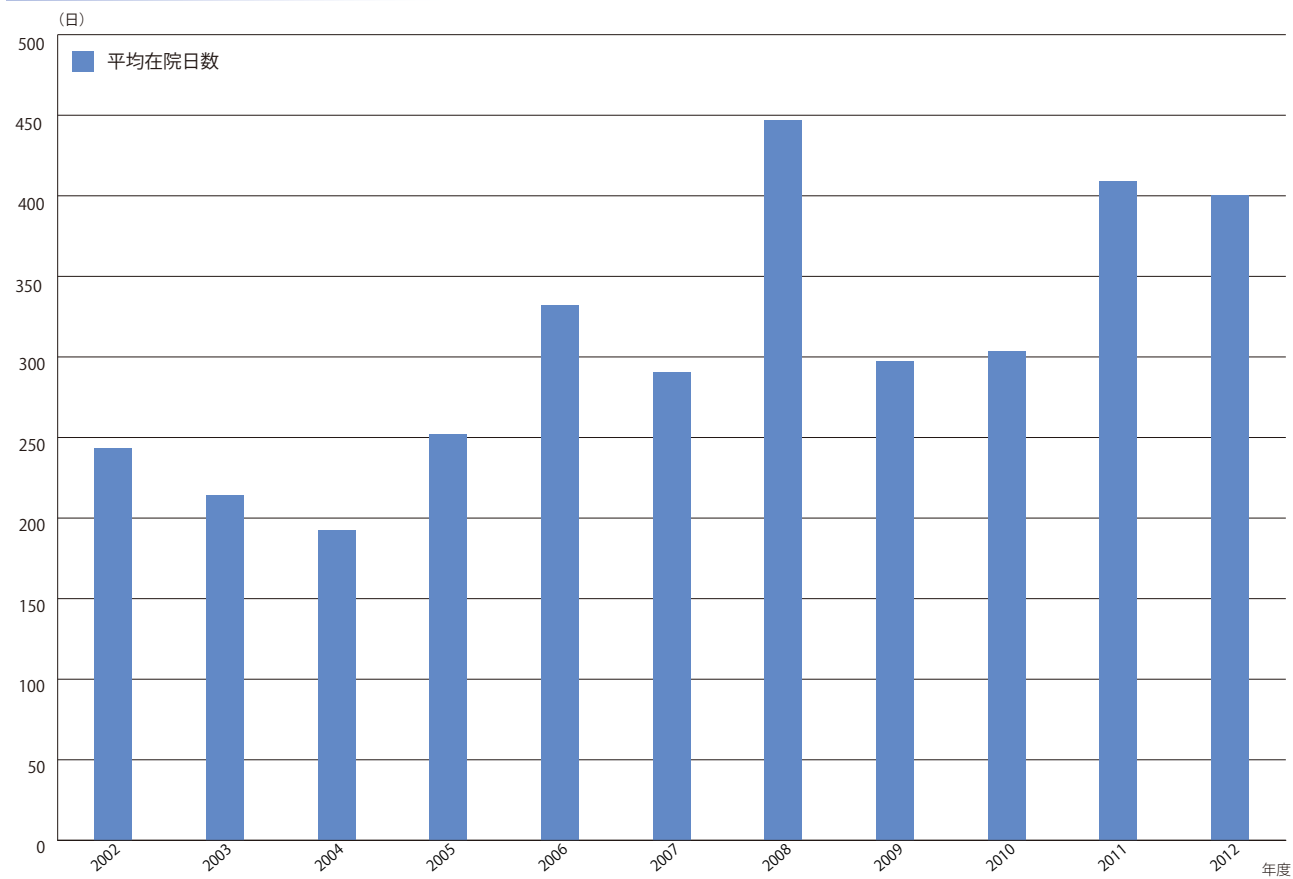
療養病棟 病床数と稼働率



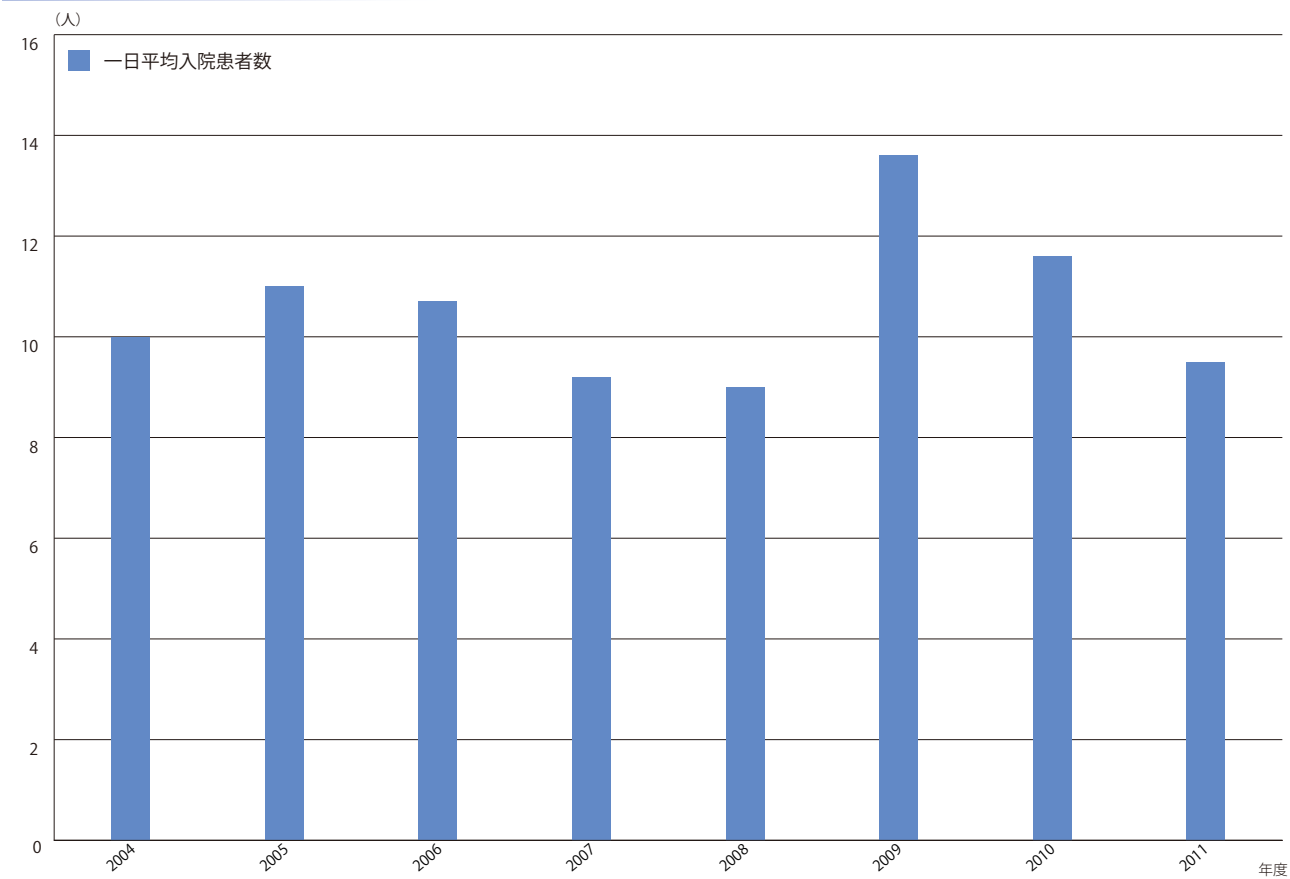
療養病棟 一日平均入院患者数



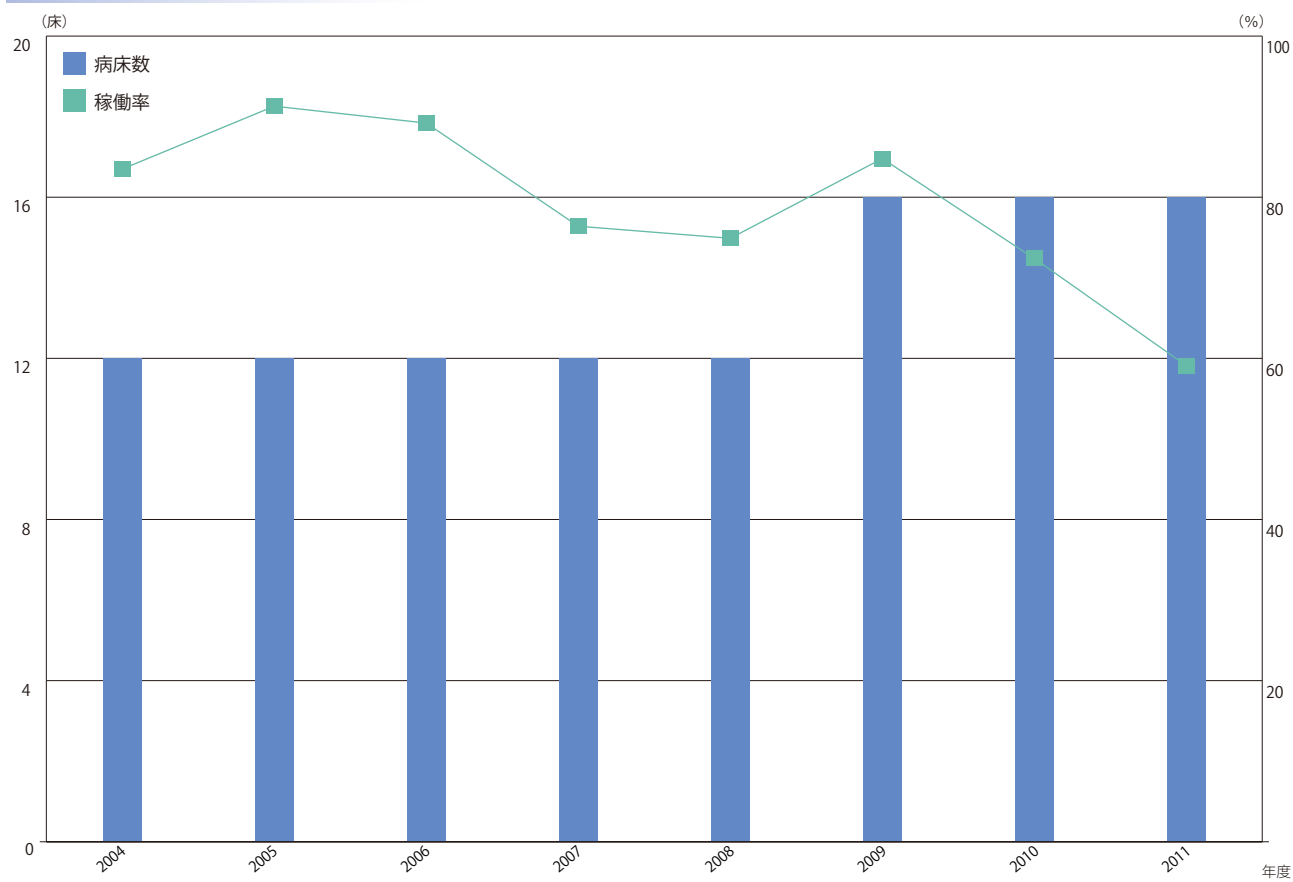
療養病棟 平均在院日数



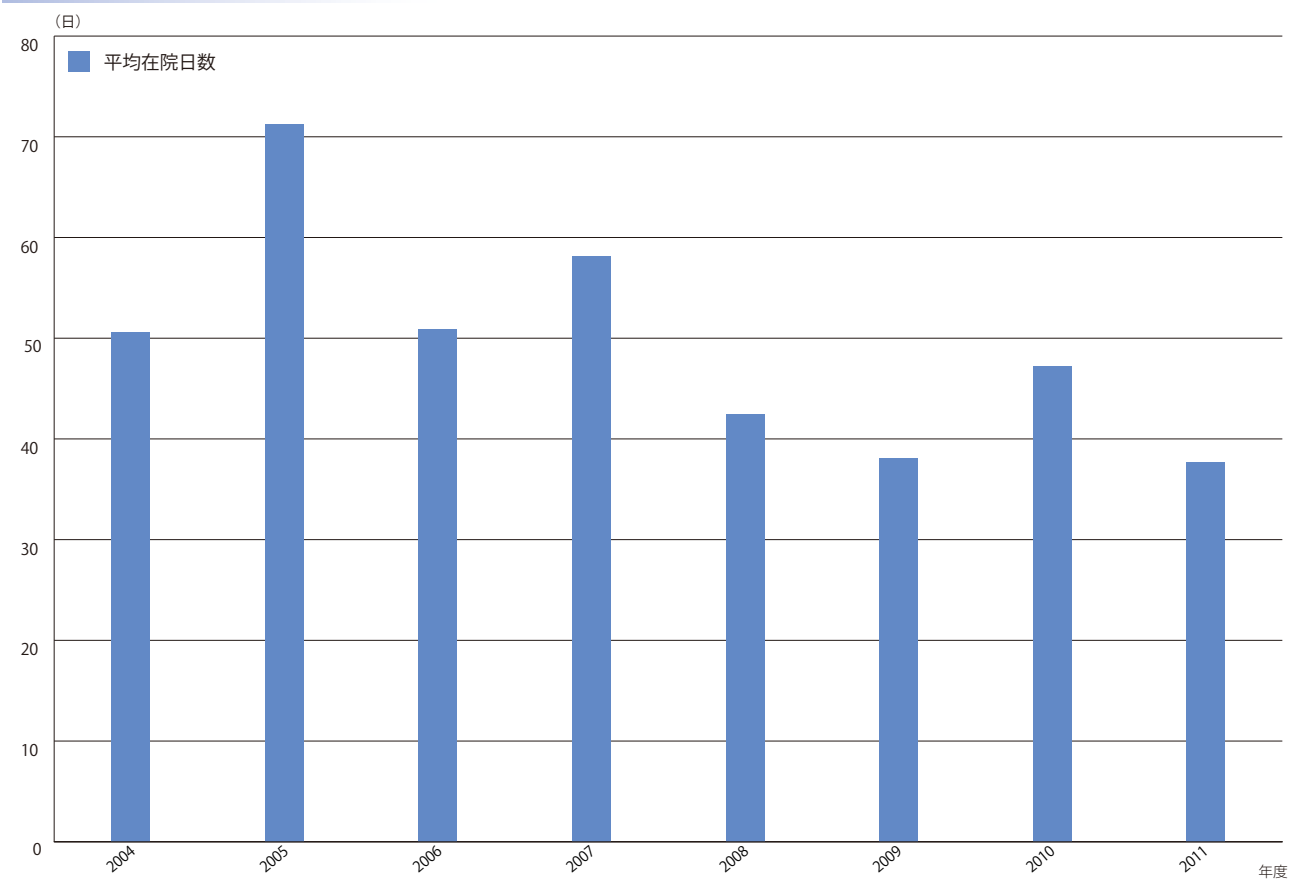
亜急性期病室 一日平均入院患者数



亜急性期病室 病床数と稼働率



亜急性期病室 平均在院日数





編集後記

この35周年記念誌は、1988年つくばセントラル病院創設からの竹島会長のご功績を顕彰するとともに、法人の新たなステージへと出発する金子洋子新理事長の誕生をお祝いする大きな節目の時に完成した。「一人の人を大切にする慈愛の医療と福祉の活動に徹する」という理念を胸に、未曾有のコロナ禍の試練にも敢然と挑み、勝ち越えてきた当法人の皆様のご尽力に感謝。これまでひとつひとつ試行錯誤しながら進化し築きあげられてきた、医療介護の複合体であるわかたけヘルスケアシステムの「今」が、1ページ1ページに刻まれる。多くの施設へと発展してきたこと以上に、尊い人材群の陣列に感動。目まぐるしく変化する時代の先を見据えながら、異体同心の“チーム若竹”で、地域の信頼と希望の灯台として、40周年さら

に50周年を共に目指していきたい。35周年記念誌の作成でお世話になった株式会社イセブ、株式会社ツクバ・インフォメーションラボ、会沢写真事務所の皆様、そして精力的に編集に関わって下さった法人内の関係各位のご尽力に心から感謝。

竹島会長が吟じられた新島襄の「寒梅」には、「庭に美しく花をつけて寒梅の木が一本ある。その梅は笑って厳しい風や雪に耐えしのんだ後、はじめてこの美しい花を咲かせるのである」と。まさに竹島会長のお姿と重なる。想像を絶する35年間のご尽力に深く敬意を表すとともに、心から感謝を捧げる。

竹島理事長退任記念誌編集委員長 小倉絹子

竹島 徹 理事長退任記念誌

社会医療法人若竹会 35周年記念

発 行 日	2023年11月23日
発 行	社会医療法人若竹会35周年記念誌作成委員会
編集委員長	竹島理事長退任記念誌編集委員長 小倉絹子
発 行	社会医療法人 若竹会 つくばセントラル病院 〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1589番地3 Tel. 029-872-1771
印 刷	株式会社イセブ
デ ザ イ ン	株式会社ツクバ・インフォメーションラボ
撮 影	会沢 淳 飯村ゆみ

* 本誌に掲載されている記事、写真等を無断で転写、複製、転載することは禁じられています。



